

2019年度 医療科学部・保健衛生学部 IR 報告書
— 2018年度卒業生を対象としたディプロマ・
ポリシー到達度調査（学生自己評価） —



藤田医科大学 IR推進センター
医療科学部・保健衛生学部 IR分室

2019年 6月 24日

藤田医科大学 I R推進センター

医療科学部・保健衛生学部 I R分室の分析報告

2018年度卒業生を対象とした

「ディプロマ・ポリシーに対する到達度」調査について

分析結果の概要

1. 医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度

1-1) アンケート調査方法および概要

1-2) 学部の調査結果および到達度の分析

1-2-1) 学部全体としての分析

1-2-2) 学科間の比較

1-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

1-3-1) 臨床検査学科

1-3-2) 看護学科

1-3-3) 放射線学科

1-3-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻

1-3-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻

1-3-6) 臨床工学科

1-3-7) 医療経営情報学科

2. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

2-1) アンケート調査方法

2-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

2-2-1) 臨床検査学科

2-2-2) 看護学科

2-2-3) 放射線学科

2-2-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻

2-2-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻

2-2-6) 臨床工学科

2-2-7) 医療経営情報学科

2018年度医療科学部卒業生を対象とした「医療科学部及び各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度」に関するアンケート結果について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R (Institutional Research) 推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部・保健衛生学部 I R 分室では、各学科の4年生を対象に2018年度医療科学部及び各学科のディプロマ・ポリシーに対する修得度(到達度)の自己評価アンケートを行いましたので、その結果について報告いたします。

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) は、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針のことです。本学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけているべき知識・能力・態度としてディプロマ・ポリシーを設定しています。

2019年6月24日

2019年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部・保健衛生学部 I R 分室
山田晃司、鈴木康司、世古留美、寺本篤司、大塚 圭、日比谷 信、武藤晃一、
近藤宏美

分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、学生が実感している学修の到達度を明らかにすることを目的として、2018年度卒業生を対象として医療科学部および所属する各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度について、自己評価アンケート調査を行い、集計・分析を行った。

医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、学部全体の集計結果では論理思考に関する設問以外は「概ね修得できた」以上と回答した学生が過半数を占めた。論理思考に関する設問の自己評価は、他の設問と比べ若干低い評価であったものの、すべての設問で「最低水準は修得できた」より高く自己評価した学生がほとんどであった。学科間で比較すると、看護学科の自己評価が他の学科より高い傾向を認めた。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、すべての学科で各ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、「最低水準は修得できた」以上と回答した学生がほとんどであり、「ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と回答した学生はわずかであった。

以上の結果より、すべての学科において、学部及び学科のディプロマ・ポリシーの達成度は十分に高い状況であると判断できた。しかし学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価において、「最低水準は修得できた」またはそれ以下と評価した学生が少数ではあるが存在していた。到達度の自己評価が低い学生の割合をさらに少なくするために、今後も教育方法やカリキュラムの改善について検討を継続する必要がある。

1. 医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度

1-1) アンケート調査方法および概要

医療科学部の2018年度4年生を対象として、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、学生自身に評価させるアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入させる方式とし、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目（計8項目）を設問として、それに対する自らの到達度を6段階で自己評価させた。

アンケート調査は、2018年度4年生が卒業直前となる2019年2月中に各学科の事情に合わせ、学生に対して一斉に記入させることが可能な日程にて実施した。

アンケート調査項目（医療科学部ディプロマ・ポリシー）を表1-1、達成度の6段階の評定尺度を表1-2に示す。

表1-1. アンケート調査の設問項目（医療科学部ディプロマ・ポリシー）

設問1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学修内容について知識が修得できましたか。
設問2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身につきましたか。
設問3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と的確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができるようになりましたか。
設問4 (論理思考)	国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになりましたか。
設問5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができるようになりましたか。
設問6 (責任感)	患者および住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになりましたか。
設問7 (専門技能)	専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して的確かつ安全に適用することができるようになりましたか。
設問8 (コミュカ)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができましたか。

表 1-2. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度 (6段階)

6	完全に修得できた
5	概ね修得できた
4	最低水準は修得できた
3	ある程度修得したが、最低水準には届かない
2	十分に修得できていない
1	全く修得できていない

1-2) 学部の調査結果および到達度の分析

2018年度医療科学部4年生を対象とした医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、アンケート調査(卒業生466名中466件:回収率100%;但し、設問6のみ未回答者3名あり)の回答の度数分布を表1-3に示す。学部全体としての各設問に対する評定尺度毎の回答結果のヒストグラムを図1-1に示す。各設問に対する回答の割合を図1-2に示す。

表 1-3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価アンケート結果 度数分布

設問1 (専門知識)									設問5 (生涯学習)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
6	78	16	28	5	11	6	11	1	6	61	14	22	3	6	4	11	1
5	265	60	62	36	31	24	32	20	5	209	41	68	29	23	14	23	11
4	111	27	11	8	16	18	14	17	4	145	39	10	16	20	23	22	15
3	10	0	2	2	1	4	1	0	3	40	8	3	2	9	7	1	10
2	1	0	0	0	1	0	0	0	2	9	1	0	1	2	3	1	1
1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	1	0	0

設問2 (倫理教養)									設問6 (責任感)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
6	83	13	31	8	8	8	13	2	6	89	17	34	5	11	10	11	1
5	244	58	63	30	29	21	25	18	5	216	38	60	34	25	22	24	13
4	118	27	8	9	17	20	19	18	4	134	39	8	10	19	15	22	21
3	15	4	1	4	2	3	1	0	3	17	5	1	1	3	3	1	3
2	5	1	0	0	4	0	0	0	2	6	2	0	1	1	2	0	0
1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0

設問3 (科学行動)									設問7 (専門技能)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
6	62	11	28	1	7	5	10	0	6	74	13	28	7	9	7	8	2
5	231	49	57	31	25	24	30	15	5	225	50	60	32	25	23	24	11
4	144	34	16	17	25	16	17	19	4	138	31	13	9	21	16	25	23
3	26	9	2	2	2	6	1	4	3	23	8	2	2	3	5	1	2
2	2	0	0	0	1	1	0	0	2	4	1	0	1	1	1	0	0
1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	0	0

設問4 (論理思考)									設問8 (コミュカ)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
6	47	7	19	1	5	4	11	0	6	92	17	35	5	9	9	13	4
5	148	28	53	23	13	11	15	5	5	222	52	59	31	23	22	26	9
4	179	46	27	17	21	20	29	19	4	129	27	8	12	24	15	18	25
3	63	19	4	8	11	9	3	9	3	17	6	1	2	3	4	1	0
2	22	2	0	2	9	5	0	4	2	5	1	0	1	1	2	0	0
1	7	2	0	0	1	3	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0

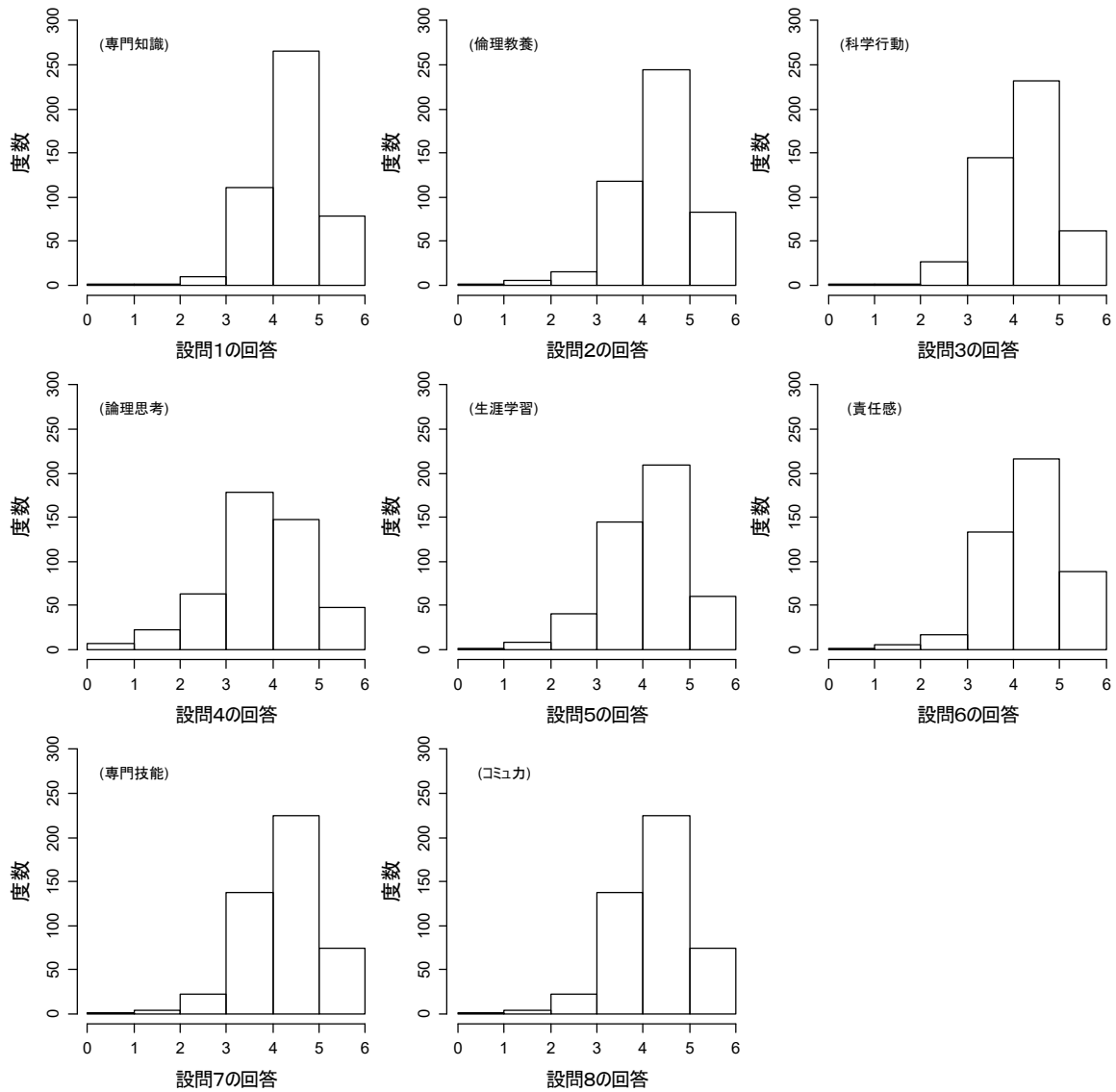


図1-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 学部全体の回答分布

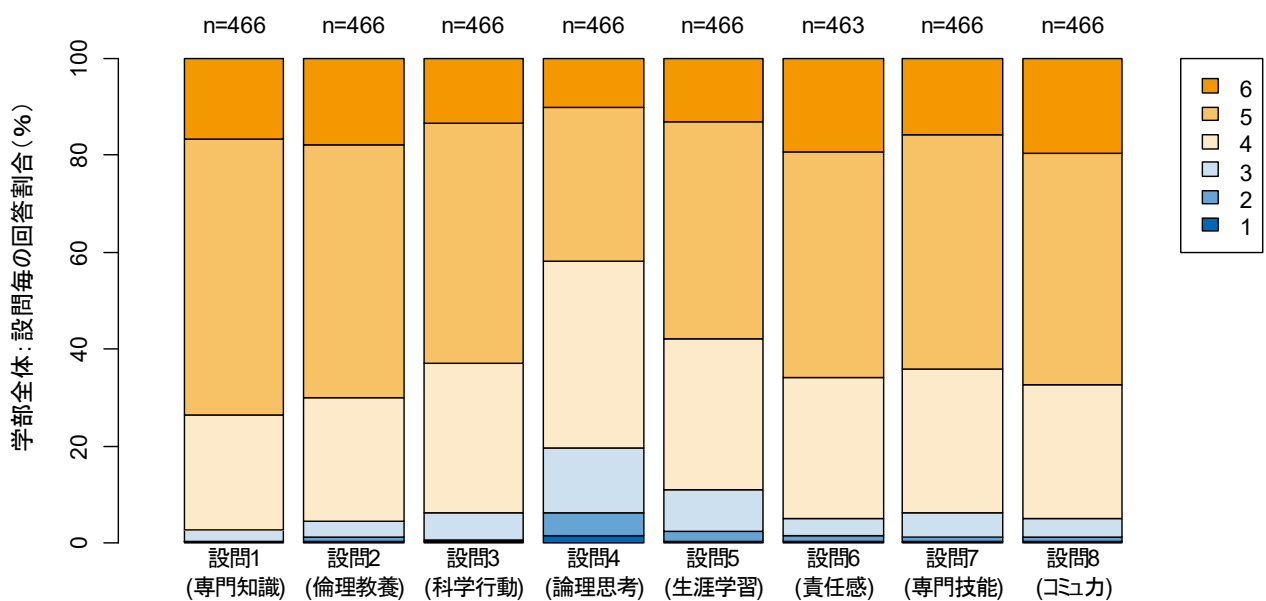


図1-2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行う。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表1-4に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図1-3に示す。

表1-4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

設問1 (専門知識)									設問5 (生涯学習)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
平均値	4.87	4.86	5.13	4.86	4.83	4.62	4.91	4.58	平均値	4.57	4.54	5.06	4.61	4.37	4.12	4.72	4.03
標本SD	0.73	0.74	0.66	0.62	0.79	0.78	0.70	0.54	標本SD	0.92	0.91	0.65	0.74	0.96	1.04	0.84	0.86
中央値	5	5	5	5	5	5	5	5	中央値	5	5	5	5	4	4	5	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6	6	最大値	6	6	6	6	6	6	6	6
最小値	1	1	3	3	2	3	3	4	最小値	1	1	3	2	2	1	2	2
n	466	104	103	51	60	52	58	38	n	466	104	103	51	60	52	58	38
設問2 (倫理教養)									設問6 (責任感)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
平均値	4.82	4.72	5.20	4.82	4.58	4.65	4.86	4.58	平均値	4.78	4.59	5.23	4.80	4.71	4.67	4.78	4.32
標本SD	0.80	0.83	0.61	0.78	0.98	0.80	0.77	0.58	標本SD	0.85	0.95	0.62	0.71	0.88	0.97	0.76	0.64
中央値	5	5	5	5	5	5	5	5	中央値	5	5	5	5	5	5	5	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6	6	最大値	6	6	6	6	6	6	6	6
最小値	1	1	3	3	2	3	3	4	最小値	1	1	3	2	2	2	3	3
n	466	104	103	51	60	52	58	38	n	463	102	103	51	59	52	58	38
設問3 (科学行動)									設問7 (専門技能)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
平均値	4.69	4.57	5.08	4.61	4.58	4.50	4.85	4.29	平均値	4.72	4.61	5.11	4.82	4.58	4.58	4.67	4.34
標本SD	0.80	0.86	0.70	0.59	0.80	0.88	0.71	0.64	標本SD	0.85	0.90	0.68	0.78	0.96	0.90	0.72	0.65
中央値	5	5	5	5	5	5	5	4	中央値	5	5	5	5	5	5	5	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6	5	最大値	6	6	6	6	6	6	6	6
最小値	1	1	3	3	2	2	3	3	最小値	1	1	3	2	1	2	3	3
n	466	104	103	51	60	52	58	38	n	466	104	103	51	60	52	58	38
設問4 (倫理思考)									設問8 (コミュカ)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
平均値	4.25	4.13	4.85	4.26	3.85	3.83	4.59	3.61	平均値	4.81	4.72	5.24	4.73	4.60	4.62	4.88	4.45
標本SD	1.06	0.97	0.76	0.87	1.20	1.24	0.84	0.92	標本SD	0.84	0.90	0.63	0.76	0.85	0.97	0.76	0.67
中央値	4	4	5	4	4	4	4	4	中央値	5	5	5	5	5	5	5	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6	5	最大値	6	6	6	6	6	6	6	6
最小値	1	1	3	2	1	1	3	1	最小値	1	1	3	2	2	2	3	4
n	466	104	103	51	60	52	58	38	n	466	104	103	51	60	52	58	38

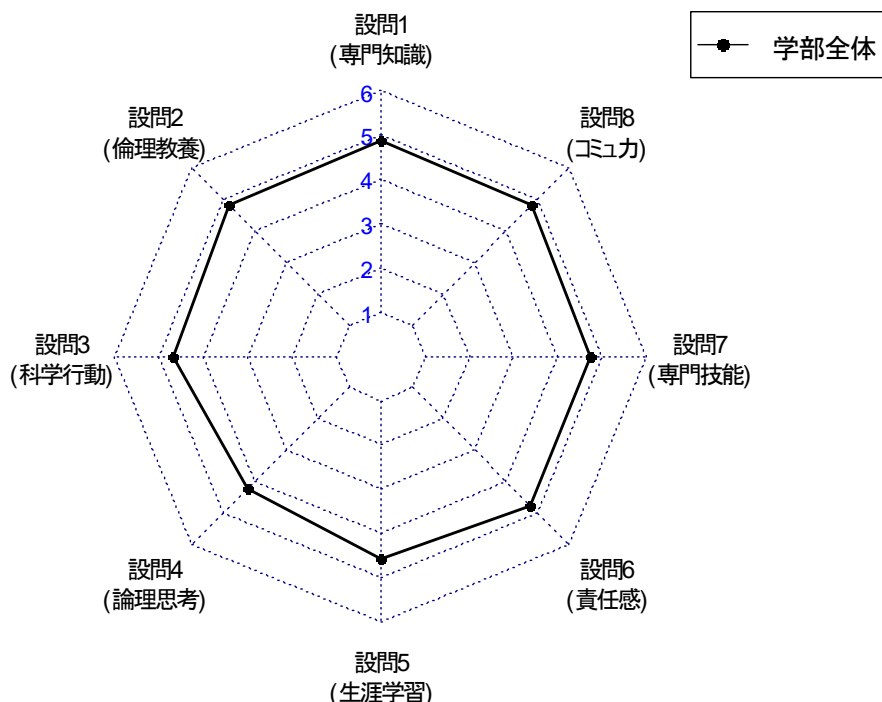


図1-3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

1-2-1) 学部全体としての分析

2018年度4年生の医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価の平均値は8項目でほぼ等しく、設問4(論理思考)の 4.25 ± 1.06 から、設問7(専門知識)の 4.87 ± 0.73 の範囲となった。中央値は7項目で「5:概ね修得できた」、設問4(論理思考)のみ「4.最低水準は修得できた」と若干低い値となった。到達度の自己評価が「2:十分に修得できていない」以下の回答は全回答中の1.88%(70/3,725件)と少数であり、「4:最低水準は修得できた」以上の回答は全回答中の92.5%(3,444/3,725件)と、卒業時の到達点として定めたディプロマ・ポリシーについて「最低水準は修得できた」と自己評価する学生が大多数を占めた。

2017年度4年生の同調査においては、設問1～設問7の中央値は「5:概ね修得できた」、「4:最低水準は修得できた」以上と回答した学生は95.3%(2,989/3,136件)、「2:十分に修得できていない」以下と回答した学生は0.77%(24/3,136件)であった。2017年度と2018年度の調査を比較すると、2018年度4年生の自己評価は2017年度4年生の自己評価とほとんど同様の傾向であった。

1-2-2) 学科間の比較

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、設問ごとに回答された評定値の割合を学科間で比較したグラフを図1-4に示す。

設問1～設問8において、看護は他学科と比較し「6:完全に修得できた」の評定値を回答する率が高く、「3:ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下の回答率が低かった。看護に次いで臨工も同様の傾向を示した。逆に、医経は「6:完全に修得できた」の評定値を回答する率が低い傾向を示した。医経は「3:ある程度修得したが、最低水準には届かない」の回答率が他学科より多い傾向であるものの、「2:十分に修得できていない」、

「1：全く修得できていない」を回答する者は他学科より少ない傾向であった。放射は「6：完全に修得できた」の回答率が看護・臨工に比べ低いものの、「5：概ね修得できた」と回答する率が高い傾向を示した。検査・リハビリ理学・リハビリ作業は各設問で似た形状の回答分布を示した。

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科間で回答された評定値の平均値に差があるかを確かめるため、F統計量を用いるすべての2群同士を比較する検定である Games-Howell 法を用いて有意差検定を行った。設問1から設問8の検定結果を図1-5から図1-12に示す。有意水準は0.05と定め、図中では「*」($p < 0.05$)、「**」($p < 0.01$)として示した。設問1～設問8の全てにおいて、看護の評定値の平均値は他の学科と比べて有意に高い値を示した。臨工は設問3・4・5・6において、放射は設問4・5・6において、他学科と比べて有意に高い値を示した。逆に、医経は全ての設問において、他の学科と比べて有意に低い値を示した。医療科学部ディプロマ・ポリシーの各8項目について学科間で比較すると、学部平均に比べ看護の自己評価が特に高く、次いで臨工、放射が高値を示し、学部平均付近に検査、やや低い値のリハビリ理学・リハビリ作業と続き、特に医経は全般的に自己評価が低い傾向を示した。

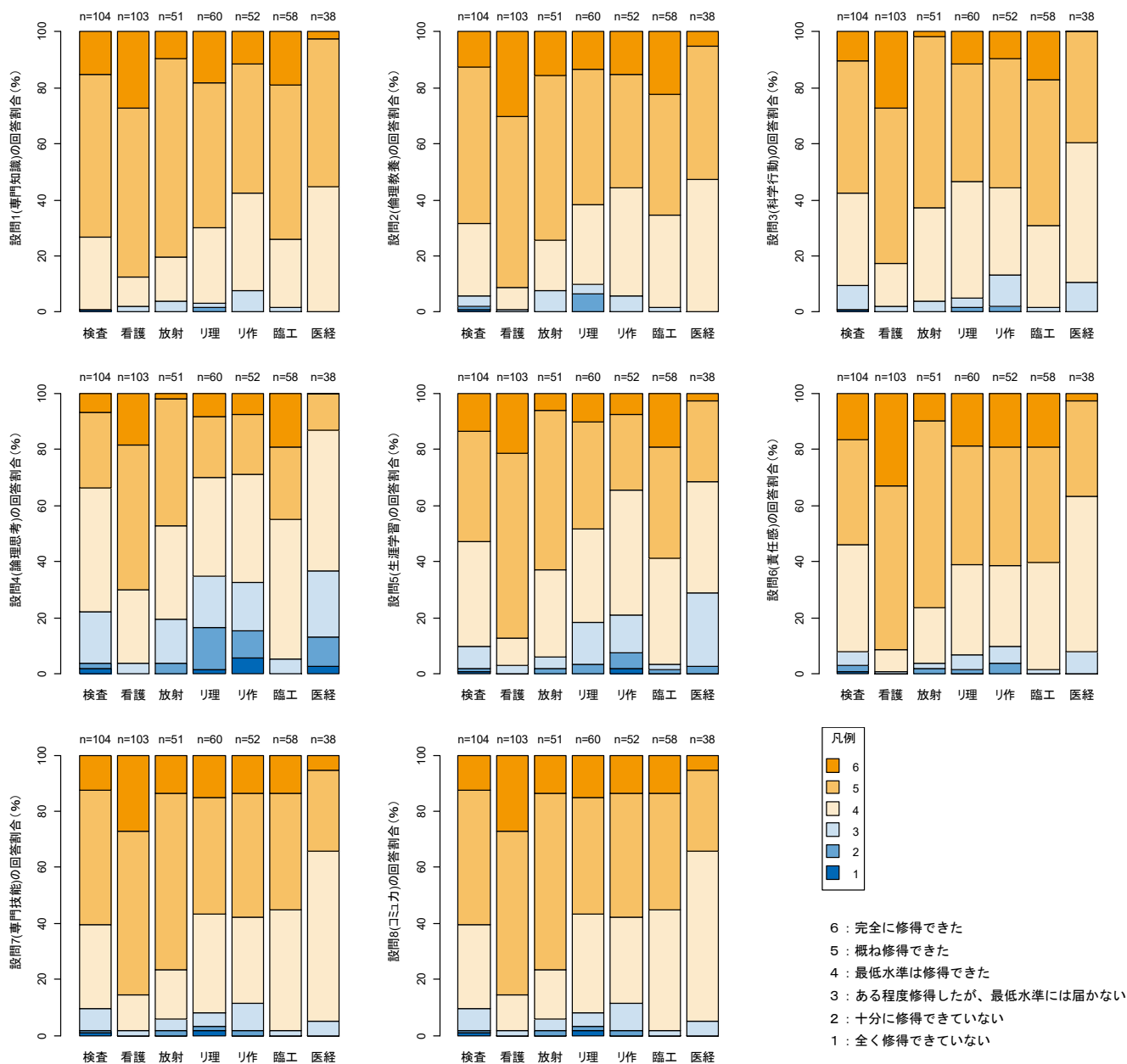


図1-4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー自己評価 回答割合の学科間比較 (割合%)

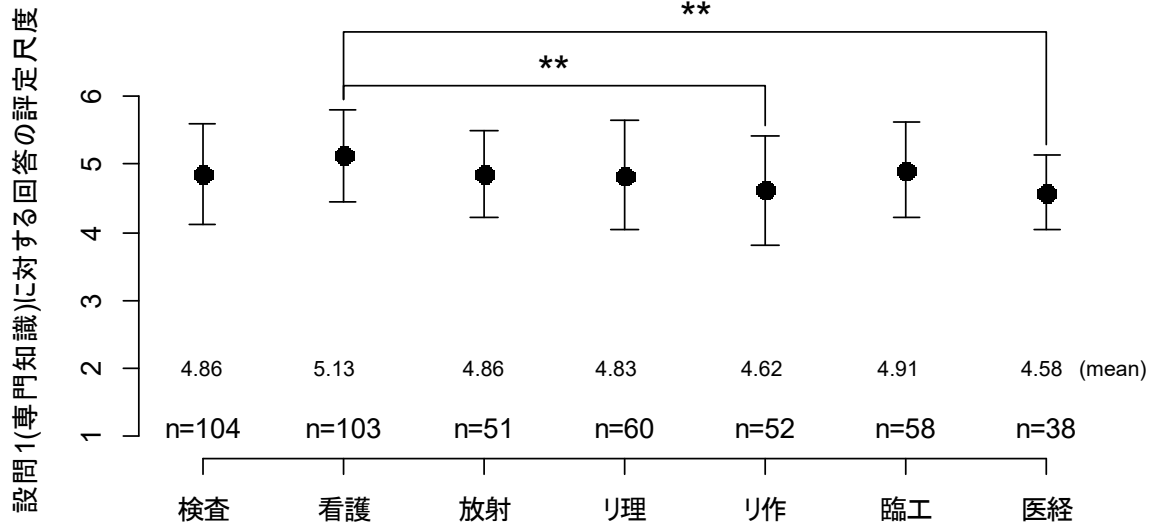


図1-5. 設問1(専門知識)に対する回答の平均値の学科間比較

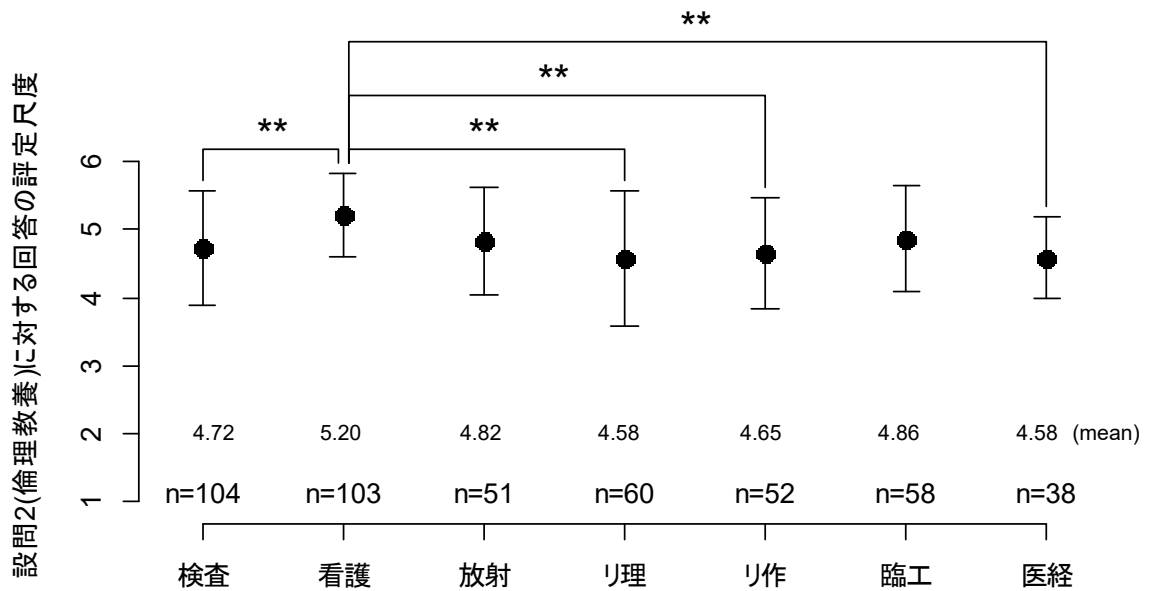


図1-6. 設問2(倫理教養)に対する回答の平均値の学科間比較

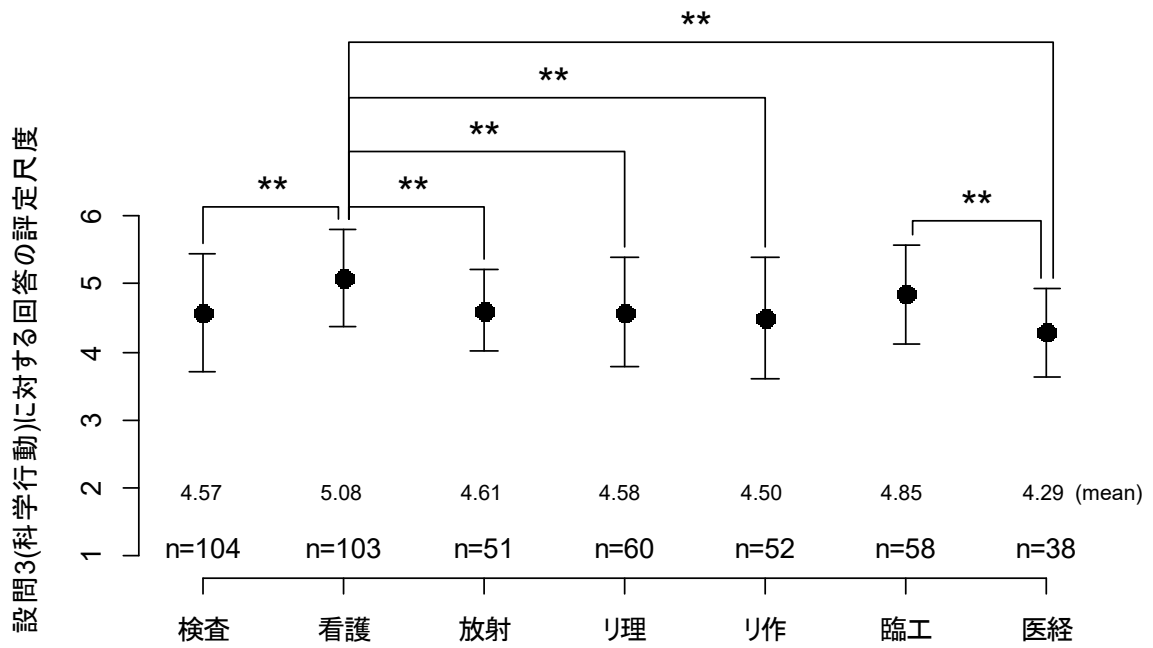


図 1 - 7. 設問 3 (科学行動) に対する回答の平均値の学科間比較

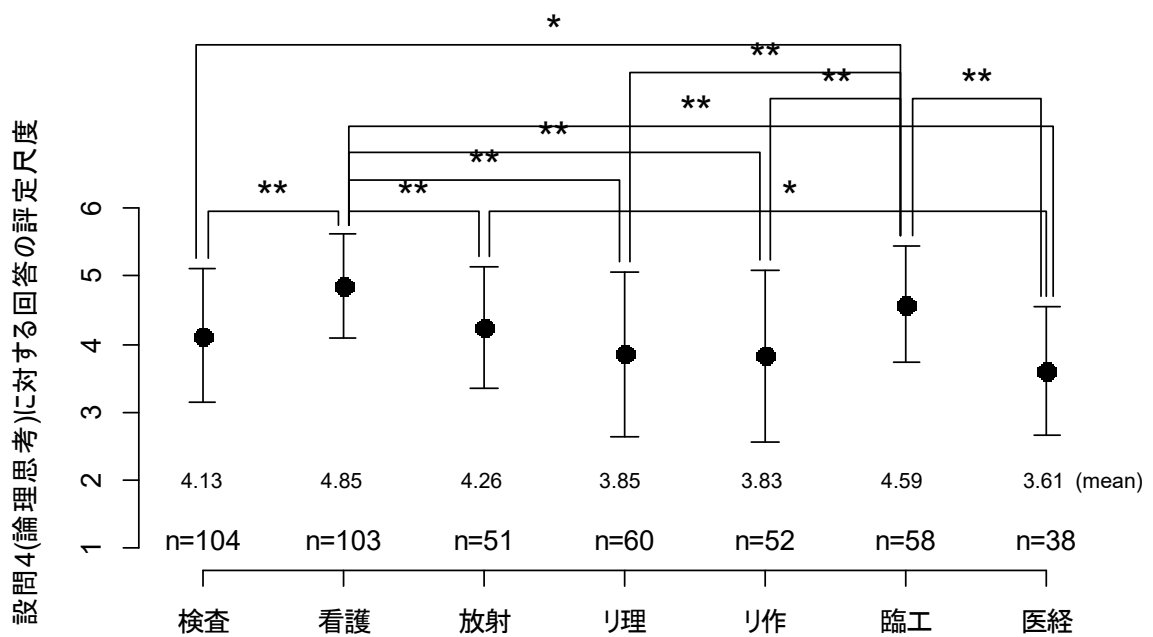


図 1 - 8. 設問 4 (論理思考) に対する回答の平均値の学科間比較

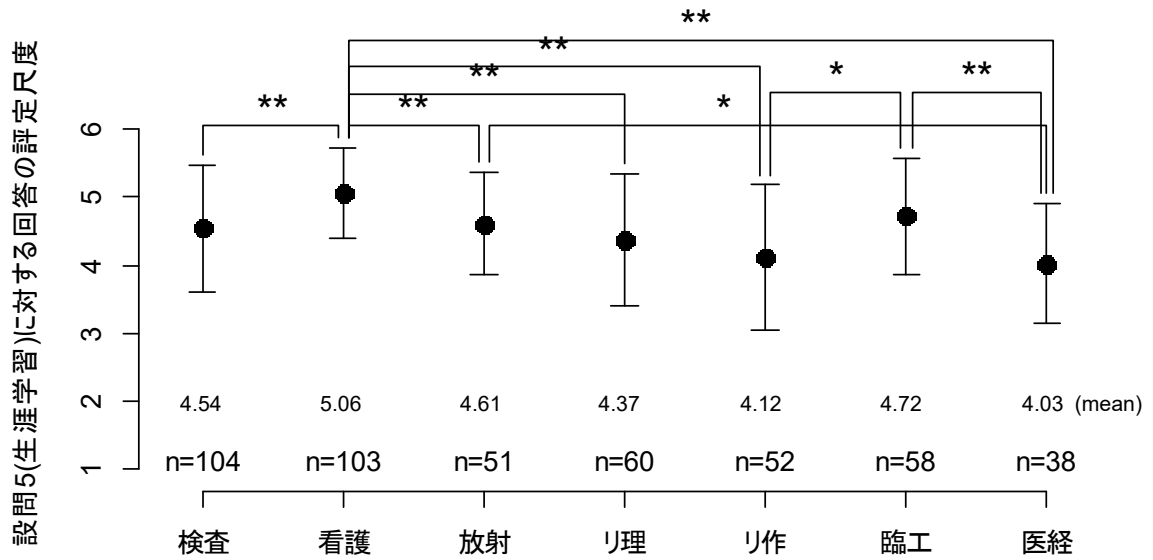


図 1 - 9. 設問 5 (生涯学習) に対する回答の平均値の学科間比較

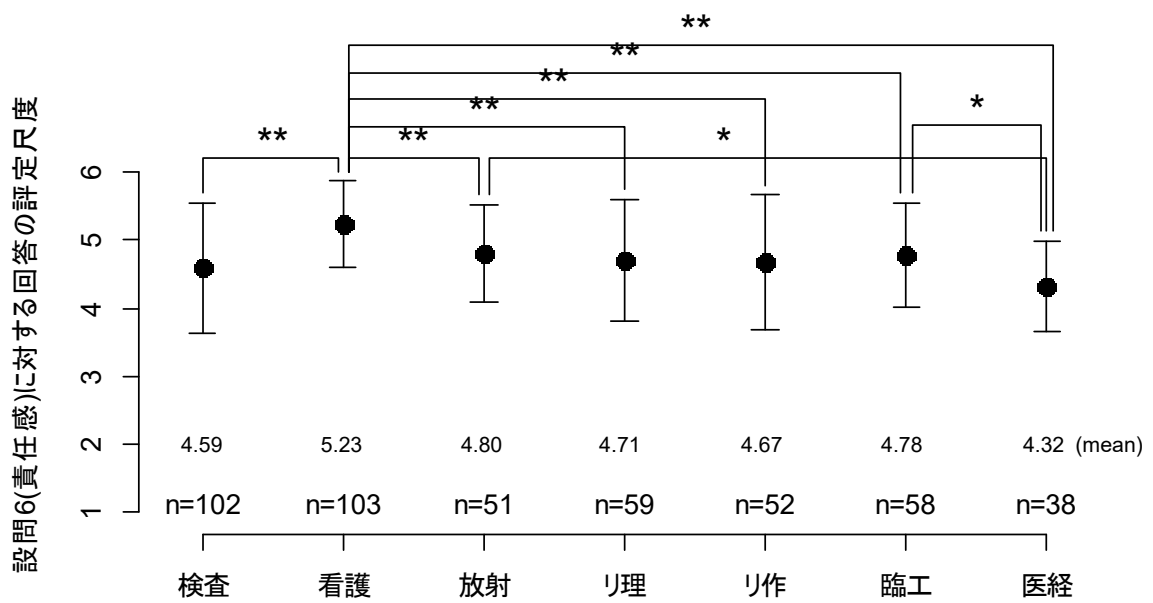


図 1 - 10. 設問 6 (責任感) に対する回答の平均値の学科間比較

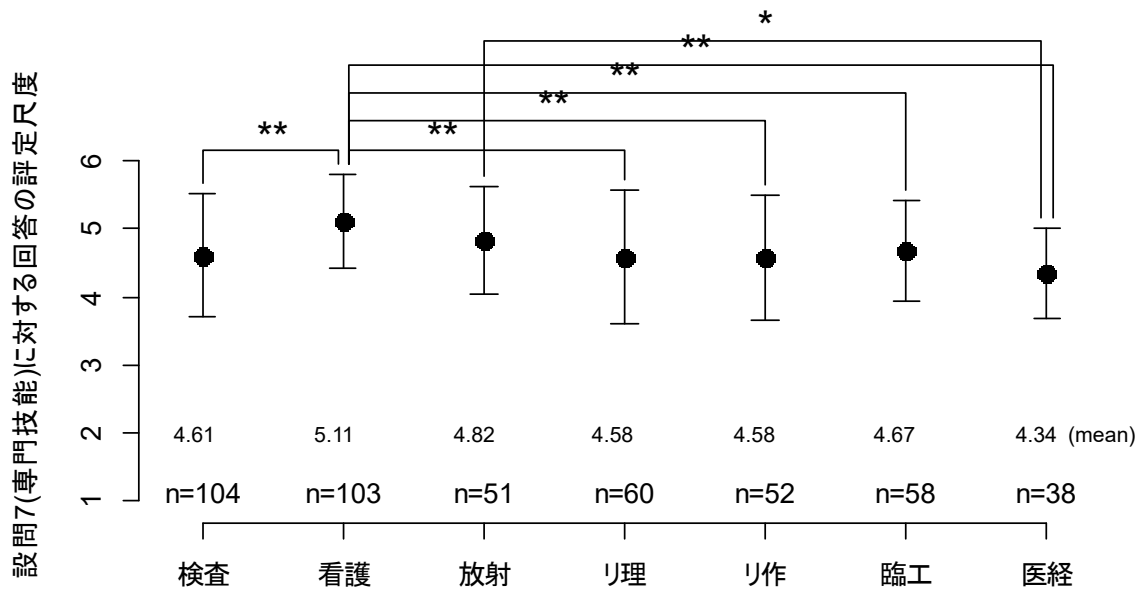


図 1-11. 設問 7 (専門技能) に対する回答の平均値の学科間比較

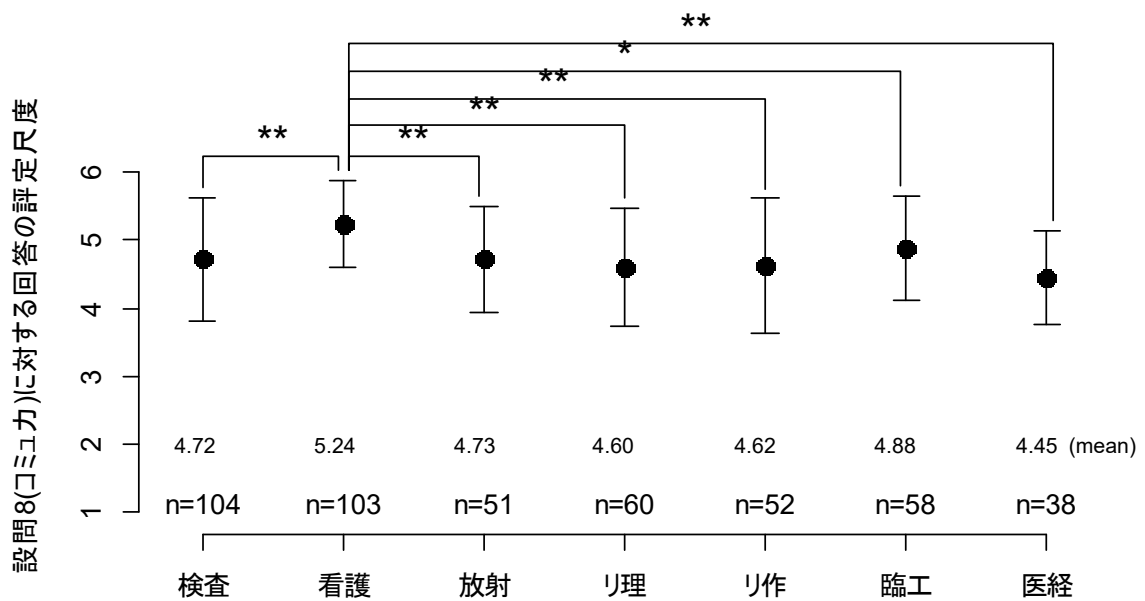


図 1-12. 設問 8 (コミュカ) に対する回答の平均値の学科間比較

1-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの 8 項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

1-3-1) 臨床検査学科

アンケート調査の設問 1～設問 8 に対する回答結果 (卒業生 104 名中 104 件 : 回収率 100% ; 但し、設問 6 のみ 2 名未回答) のヒストグラムを図 1-13、設問毎の回答割合を図 1-14 に示す。設問 1～設問 8 について、学部全体の回答の平均値と臨床検査学科の回答

の平均値を比較するレーダーチャートを図1-15に示す。

全ての設問で評定値の平均は学部全体とほぼ同じ程度の値であったが、学部平均値を上回るものはなかった（学部平均値との差：-0.01～-0.19、平均：-0.09）。学部平均値との差が最も差が大きかった設問は、設問6（責任感）であった。

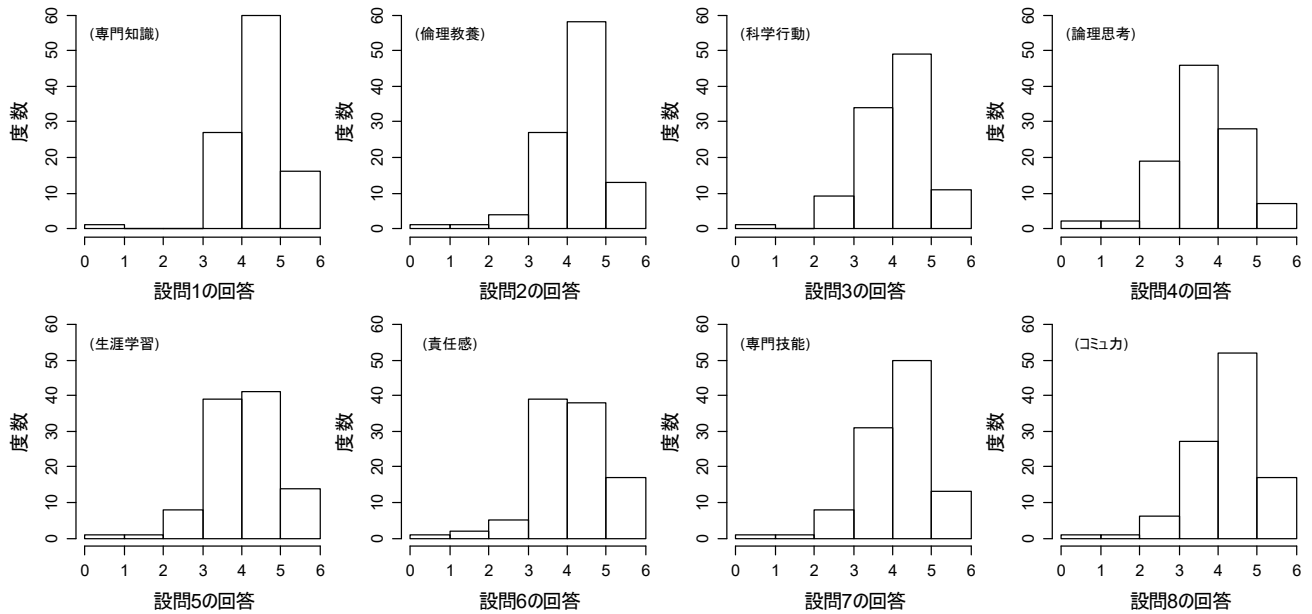


図1-13. 臨床検査学科の回答分布

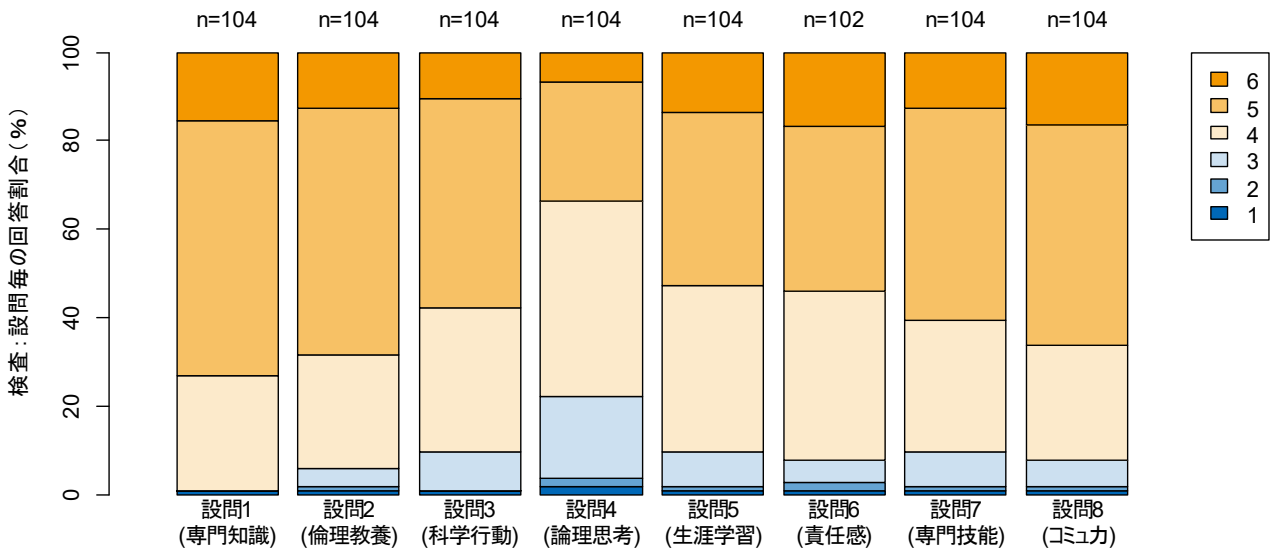


図1-14. 臨床検査学科の医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
設問毎の回答割合

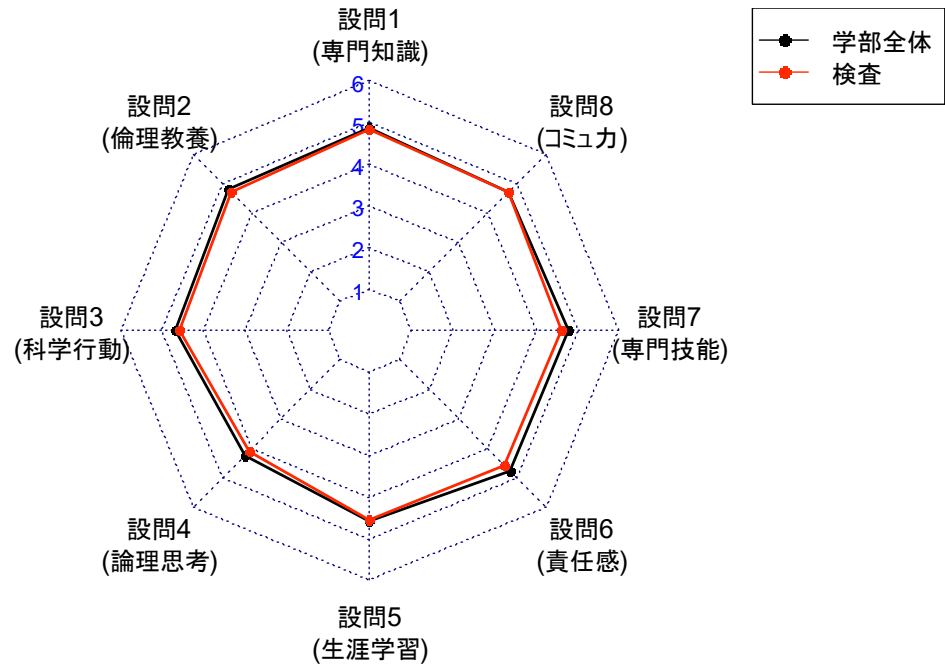


図 1-15. 回答結果の臨床検査学科と学部全体との比較 (平均値)

1-3-2) 看護学科

アンケート調査の設問 1～設問 8 に対する回答結果 (卒業生 103 名中 103 件 : 回収率 100%) のヒストグラムを図 1-16、設問毎の回答割合を図 1-17 に示す。設問 1～設問 8 について、学部全体の回答の平均値と看護学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図 1-18 に示す。

設問 1～設問 8 の全てにおいて、評定値の平均は学部全体平均より 0.26～0.60 と高い値となった。設問 4 (論理的思考) では学部平均と比較し最大 0.6 の差となった。

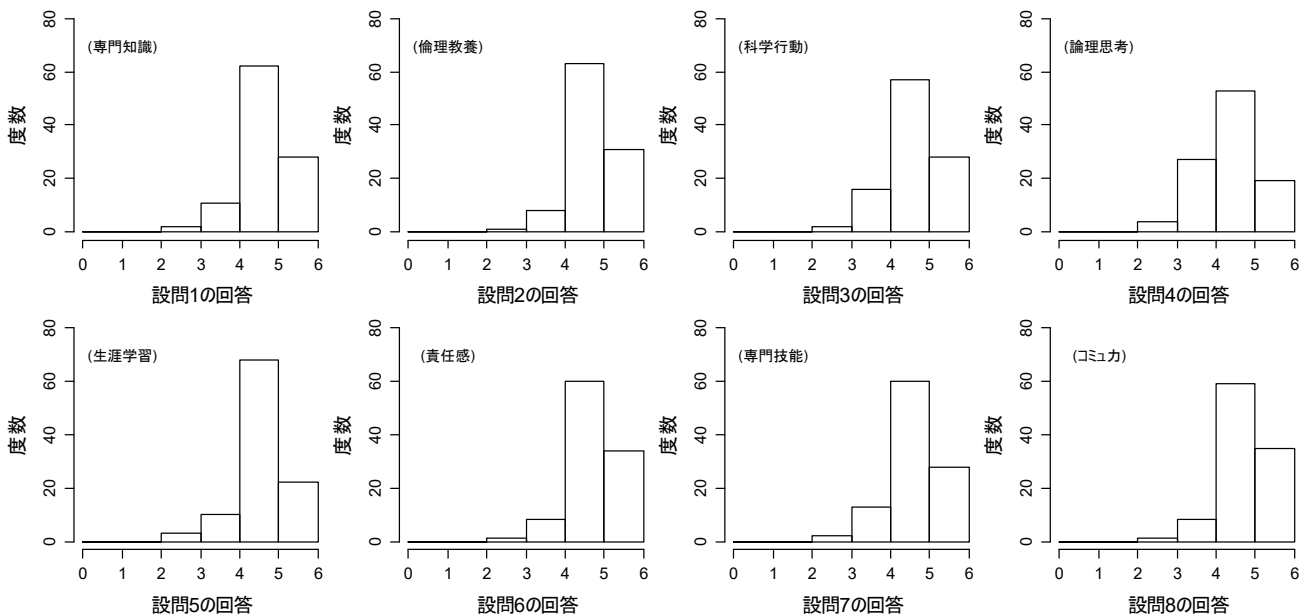


図 1-16. 看護学科の回答分布

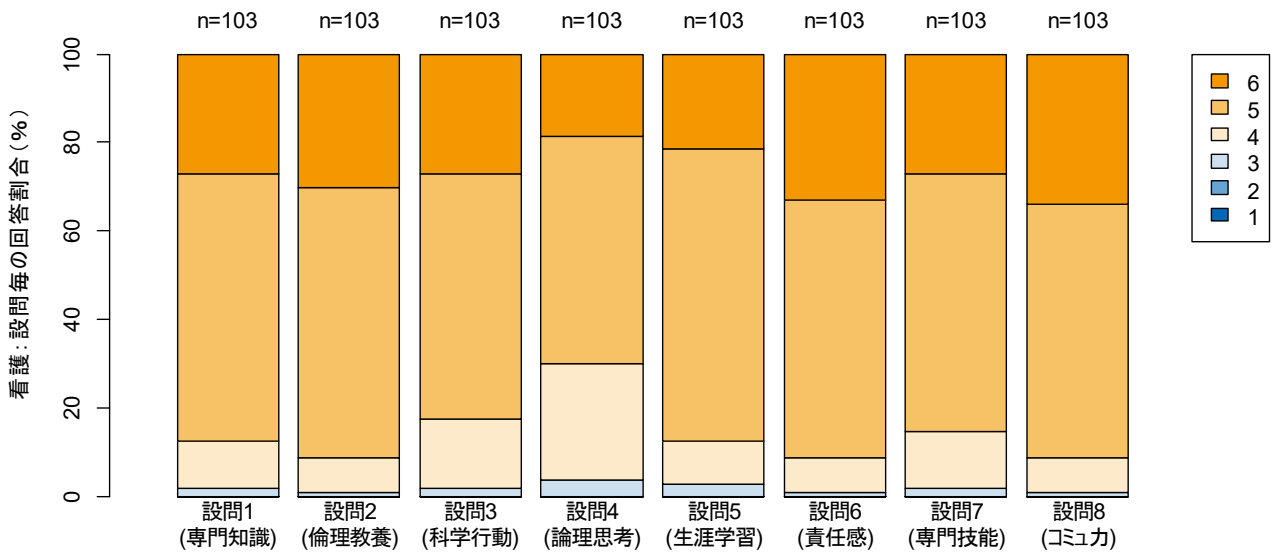


図 1-17. 看護学科の医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

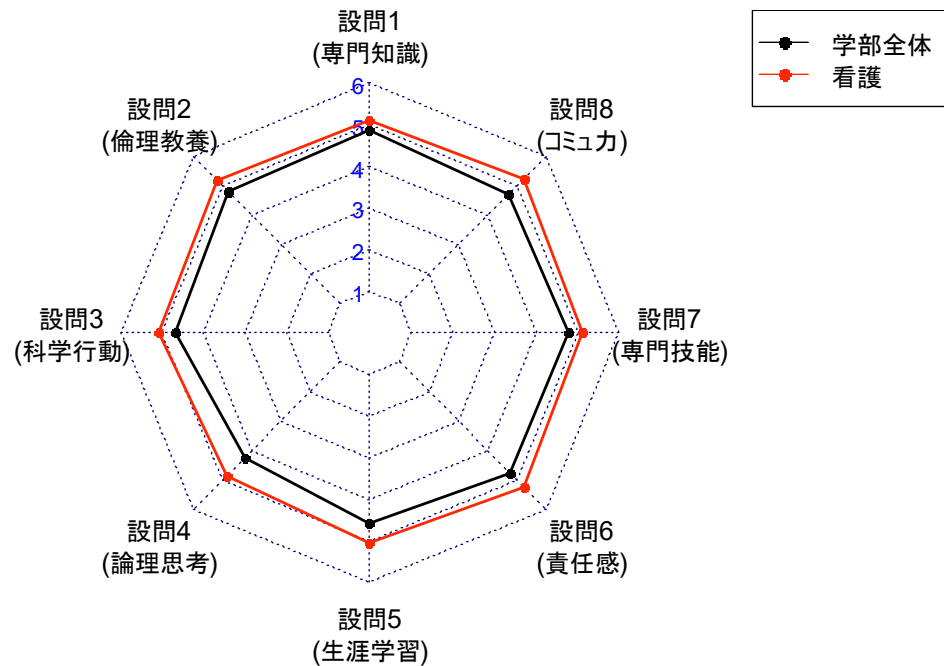


図 1-18. 回答結果の看護学科と学部全体との比較 (平均値)

1-3-3) 放射線学科

アンケート調査の設問 1～設問 8 に対する回答結果(卒業生 51 名中 51 件:回収率 100%)のヒストグラムを図 1-19、設問毎の回答割合を図 1-20 に示す。設問 1～設問 8 について、学部全体の回答の平均値と放射線学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図 1-21 に示す。

設問 1～設問 8 の評定値の平均は学部全体平均とほぼ等しい結果となった。

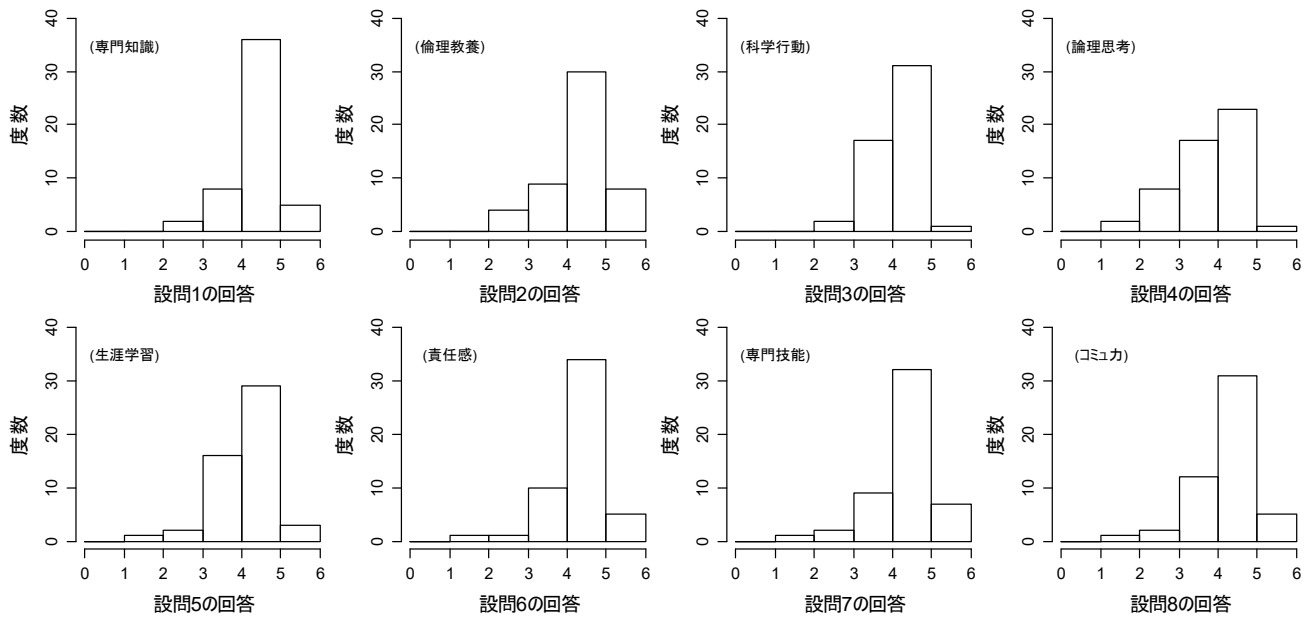


図 1 - 19. 放射線学科の回答分布

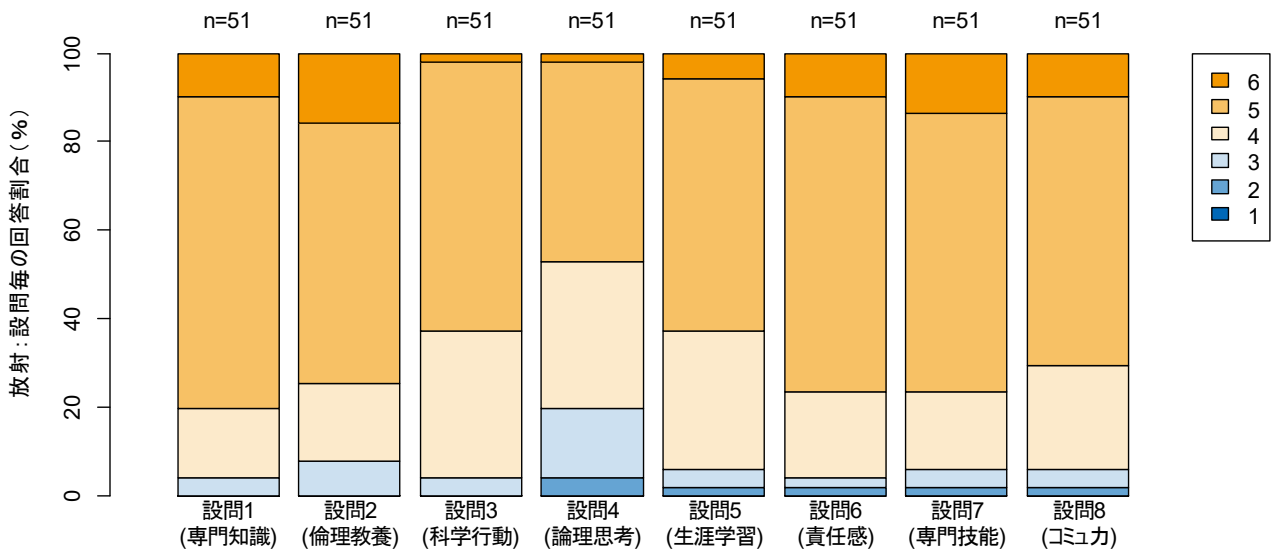


図 1 - 20. 放射線学科の医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

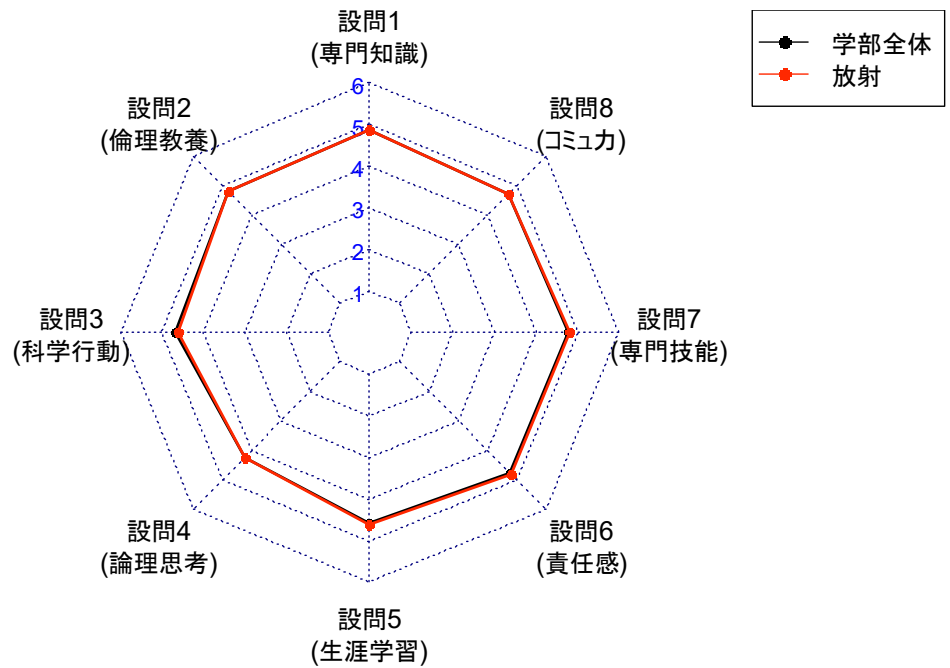


図1-21. 回答結果の放射線学科と学部全体との比較 (平均値)

1-3-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果(卒業生60名中60件:回収率100%;但し、設問6のみ1名未回答)のヒストグラムを図1-22、設問毎の回答割合を図1-23に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科理学療法専攻の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図1-24に示す。

設問1～設問8の全てにおいて評定値の平均は学部全体平均より低値(最小: -0.40、最大: -0.04、平均: -0.18)を示す回答結果となった。学部平均値との差が最も大きくなった設問は、設問4(論理思考)であった。

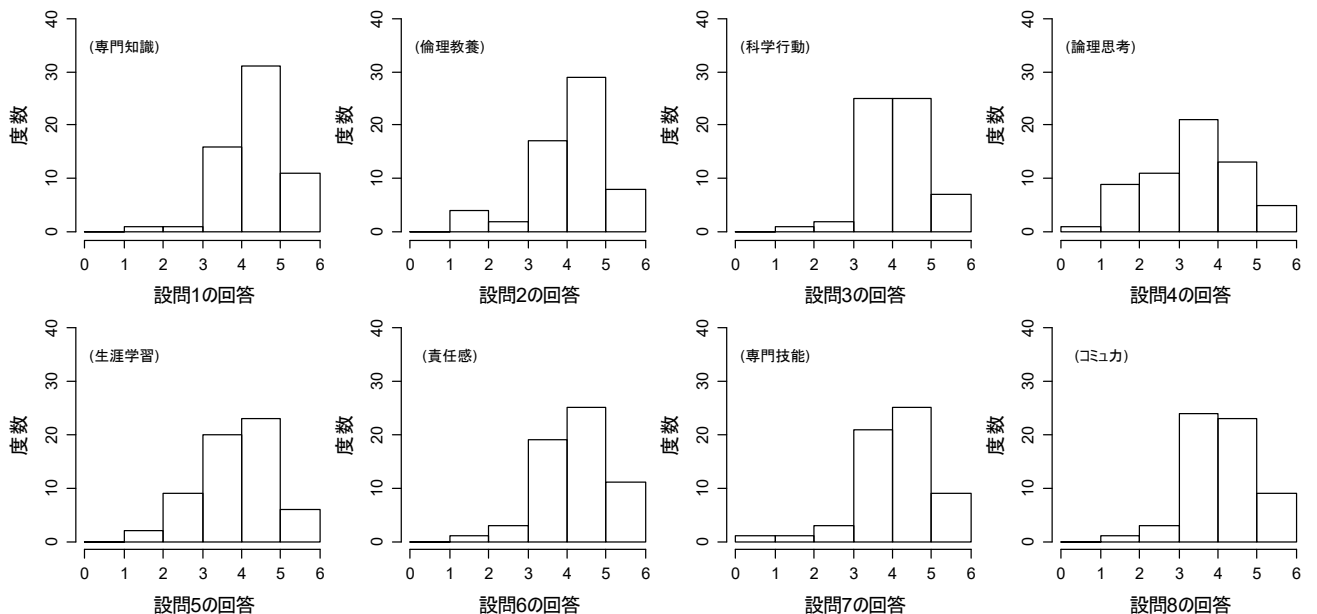


図1-22. リハビリテーション学科理学療法専攻の回答分布

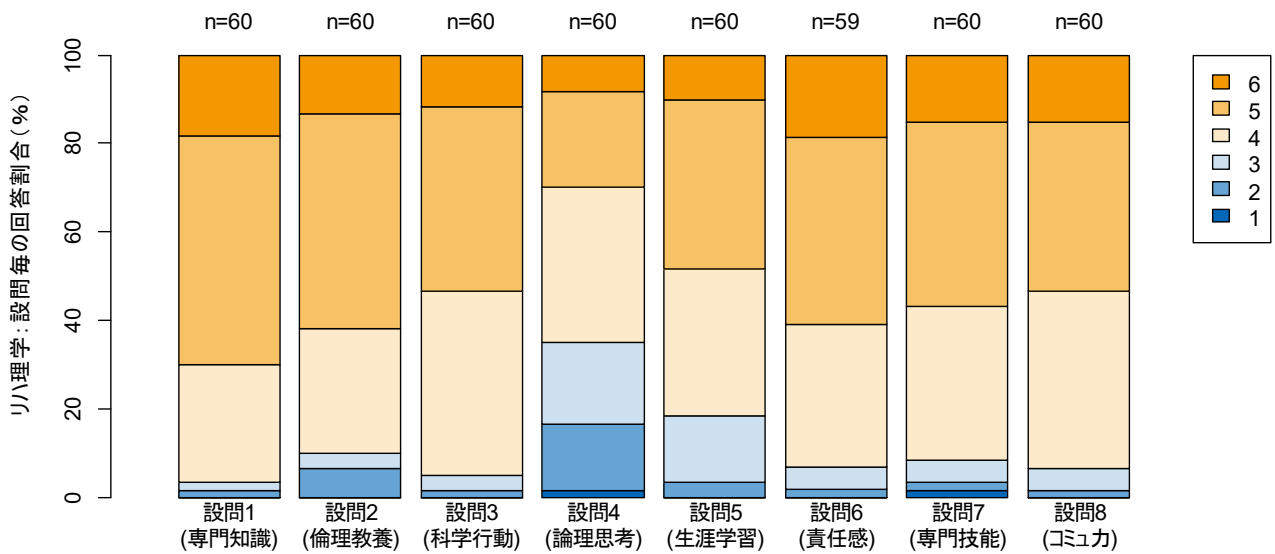


図 1-23. リハビリテーション学科理学療法専攻の
医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

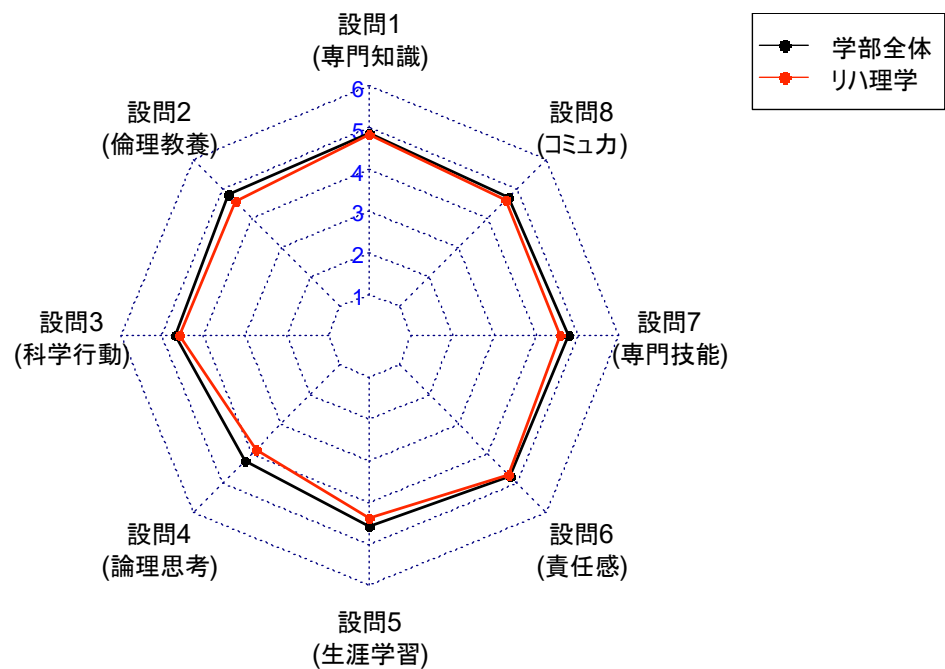


図 1-24. 回答結果のリハビリテーション学科理学療法専攻と学部全体との比較 (平均値)

1-3-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果(卒業生52名中52件:回収率100%)のヒストグラムを図1-25、設問毎の回答割合を図1-26に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科作業療法専攻の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図1-27に示す。

設問1～設問8の全てにおいて評定値の平均は学部全体平均より低い値(最小: -0.46、

最大: -0.11 、平均: -0.24) を示す回答結果となった。学部平均値との差が最も大きくなった設問は、設問5 (生涯学習) であった。

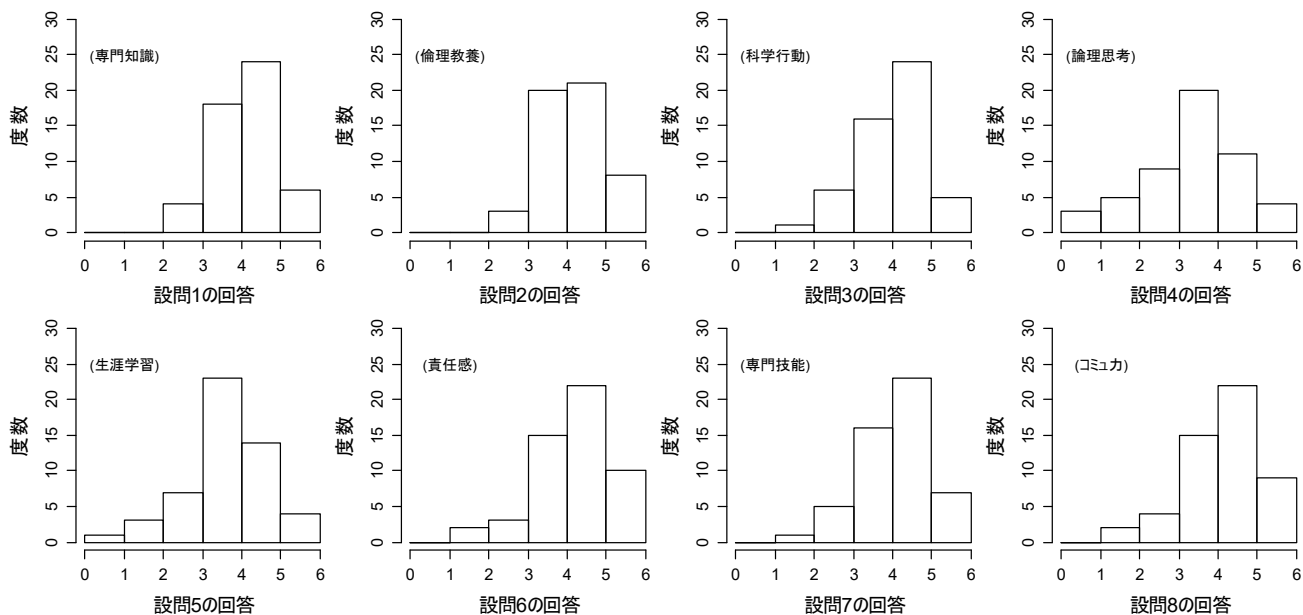


図 1-25. リハビリテーション学科作業療法専攻の回答分布

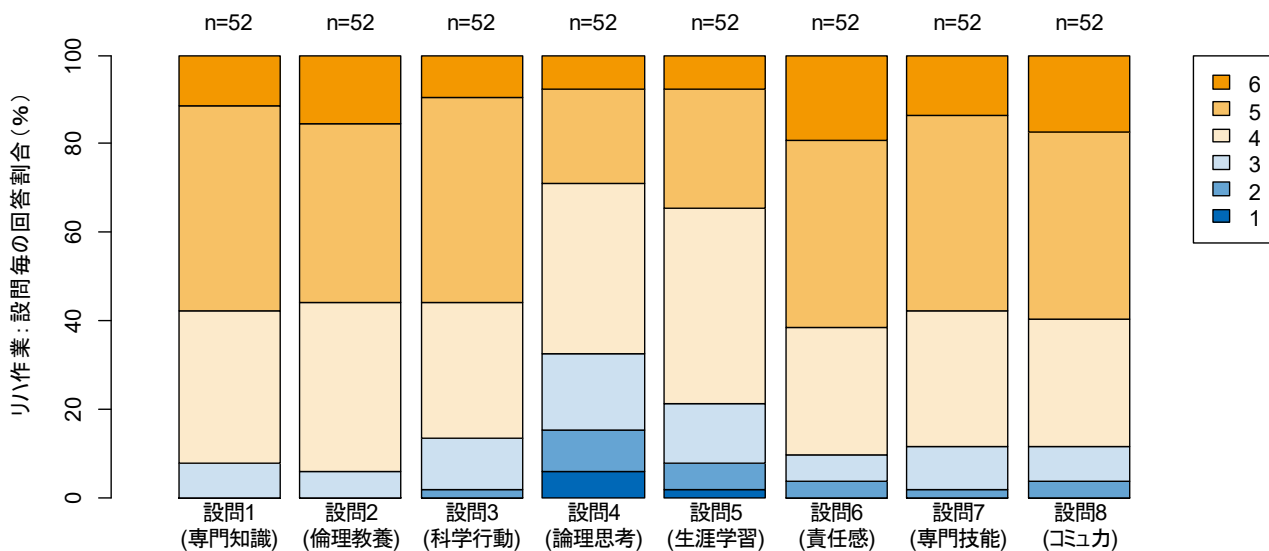


図 1-26. リハビリテーション学科作業療法専攻の
医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

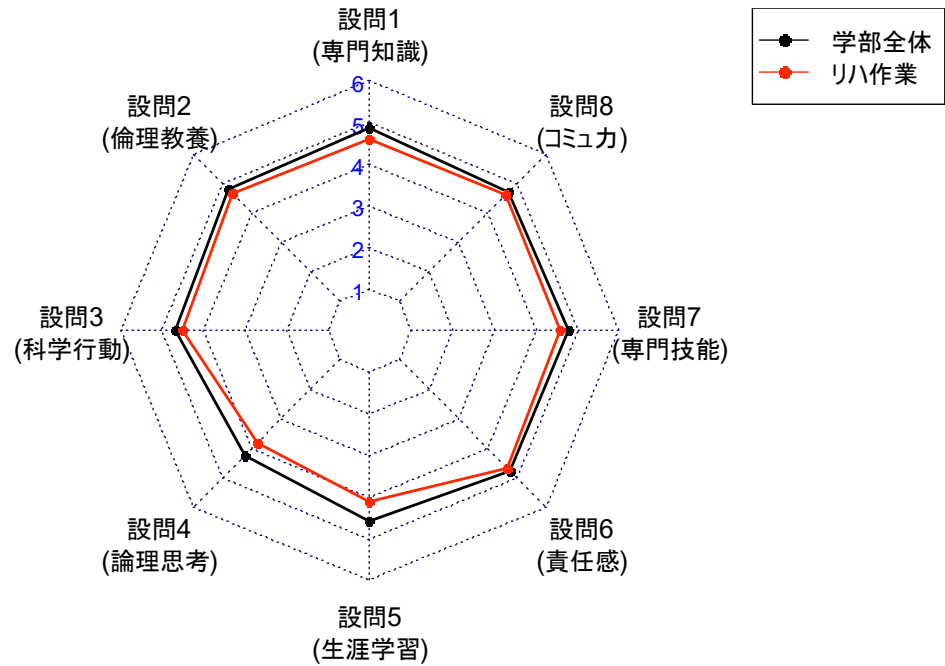


図 1-27. 回答結果のリハビリテーション学科作業療法専攻と学部全体との比較 (平均値)

1-3-6) 臨床工学科

アンケート調査の設問 1～設問 8 に対する回答結果(卒業生 58 名中 58 件:回収率 100%)のヒストグラムを図 1-28、設問毎の回答割合を図 1-29 に示す。設問 1～設問 8 について、学部全体の回答の平均値と臨床工学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図 1-30 に示す。

設問 1～設問 8 の全てで、評定値の平均は学部全体とほぼ等しかった。論理思考がやや高値 (約 0.3) を示したが、全学科中で平均的な結果となった。

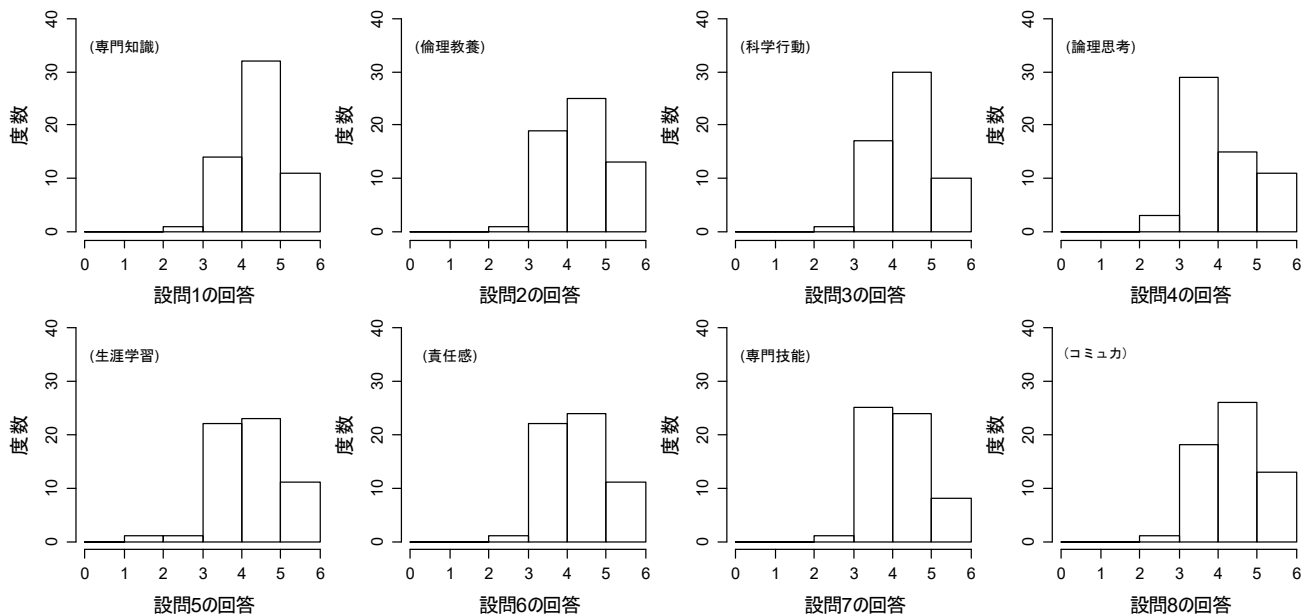


図 1-28. 臨床工学科の回答分布

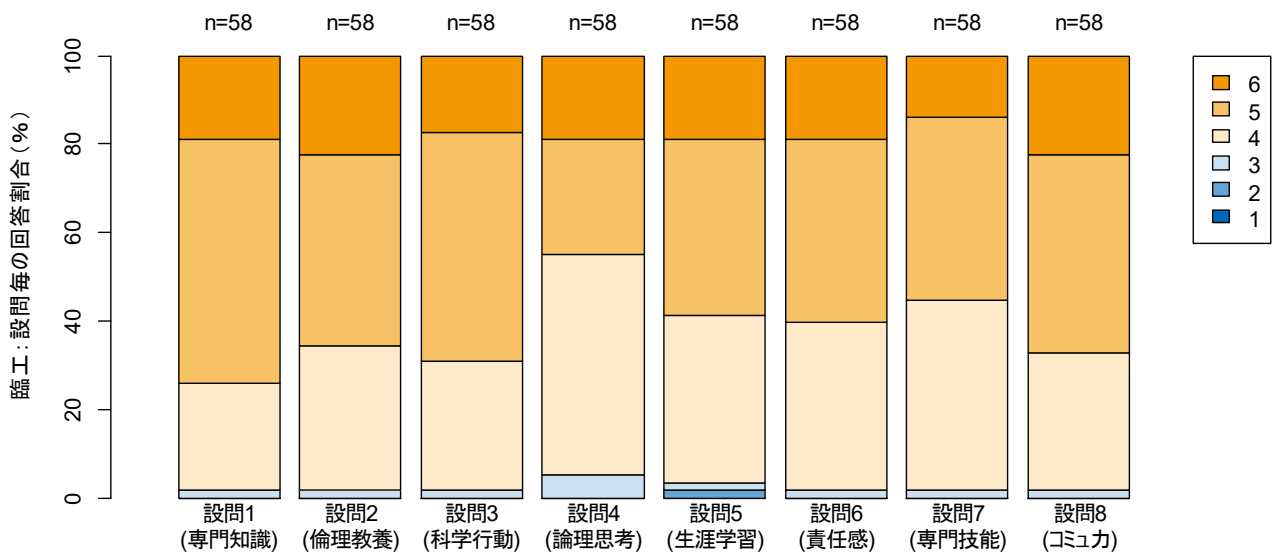


図1-29. 臨床工学科の医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

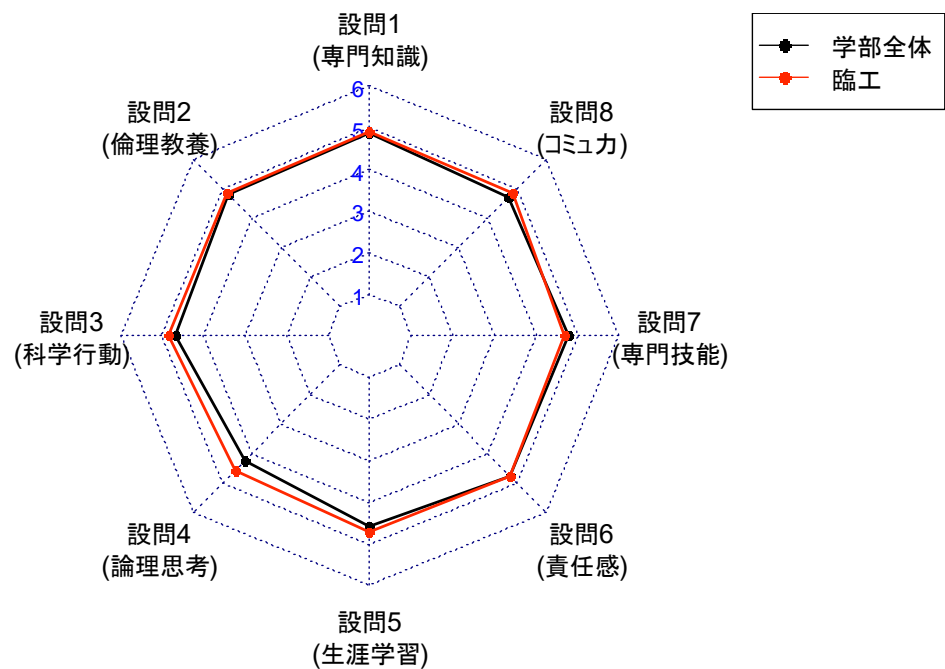


図1-30. 回答結果の臨床工学科と学部全体との比較 (平均値)

1-3-7) 医療経営情報学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果(卒業生38名中38件:回収率100%)のヒストグラムを図1-31、設問毎の回答割合を図1-32に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と医療経営情報学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図1-33に示す。

全ての設問で評定値の平均は学部全体と比べて低値(-0.64～-0.24、平均-0.42程)を示した。特に、設問4(論理思考)は-0.64、設問5(生涯学習)は-0.55ほど、学部全体平均より低い値となった。

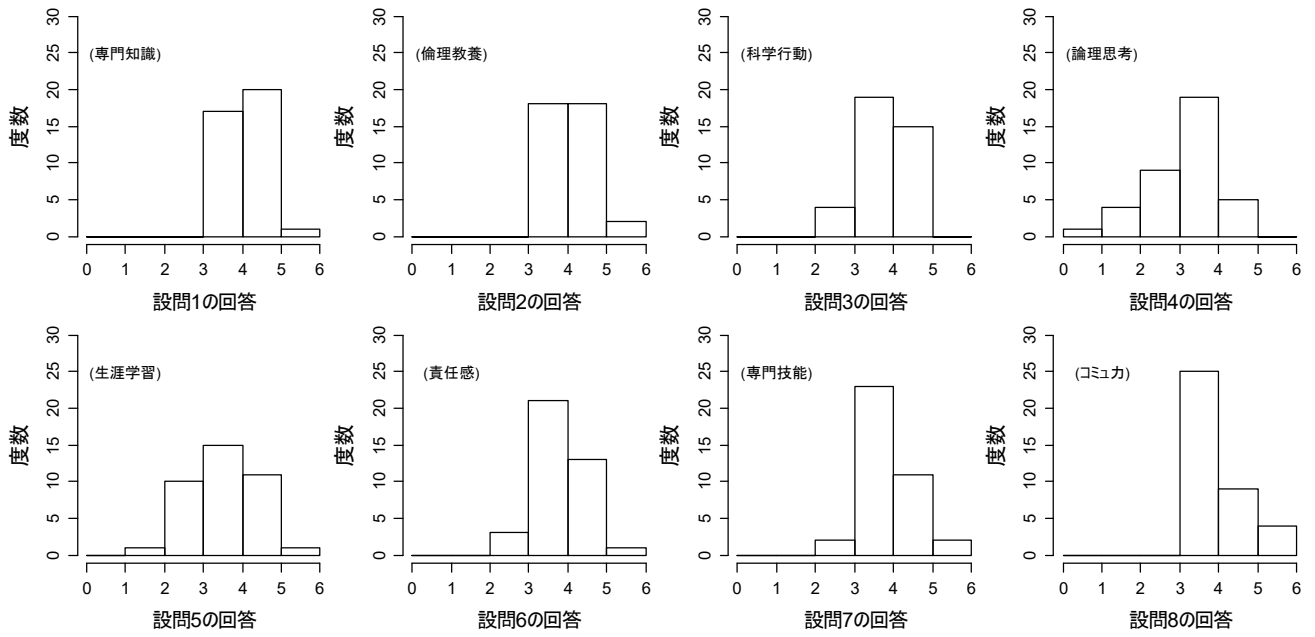


図1-31. 医療経営情報学科の回答分布

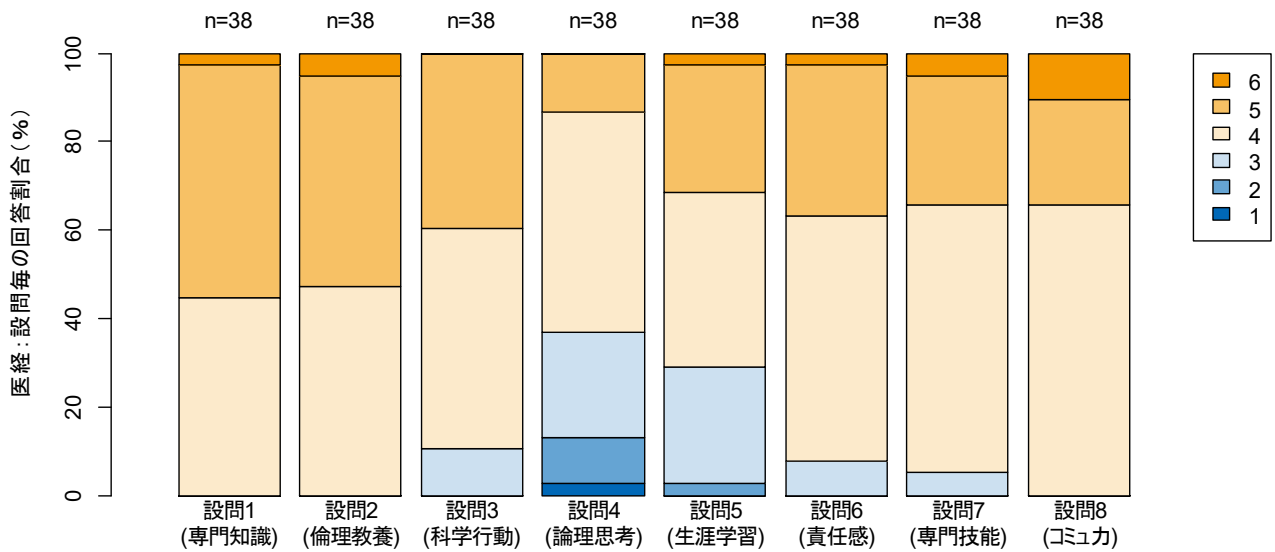


図1-32. 医療経営情報学科の医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
設問毎の回答割合

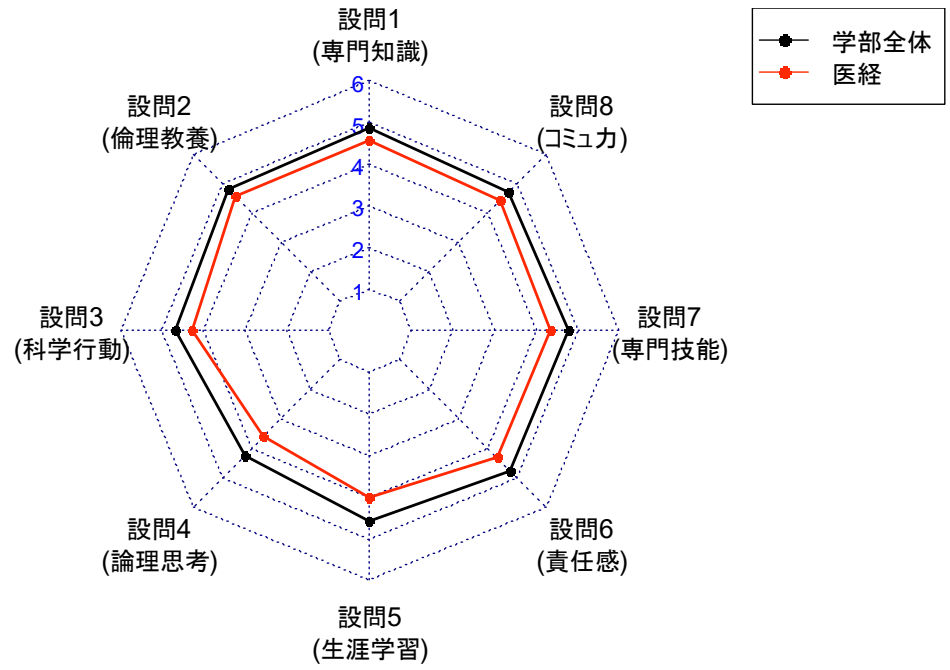


図 1 - 33. 回答結果の医療経営情報学科と学部全体との比較 (平均値)

2. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

2-1) アンケート調査方法

医療科学部の2018年度4年生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、学生自身に評価させるアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入させる方式とし、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を設問として、それに対する自らの到達度を6段階で自己評価させた。

達成度の6段階の評定尺度を表2-1に示す。

表2-1. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度(6段階)

6 : 完全に修得できた
5 : 概ね修得できた
4 : 最低水準は修得できた
3 : ある程度修得したが、最低水準には届かない
2 : 十分に修得できていない
1 : 全く修得できていない

アンケート調査は、2018年度4年生が卒業直前となる2019年2月中に各学科の事情に合わせ、学生に対して一斉に記入させることが可能な日程にて実施した。

2-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

2-2-1) 臨床検査学科

アンケート調査項目(臨床検査学科ディプロマ・ポリシー)を表2-2に示す。

2018年度臨床検査学科4年生を対象とした臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、設問1～設問7に対する評定尺度毎の回答結果(卒業生104名中104件:回収率100%)のヒストグラムを図2-1に示す。各設問に対する回答の割合を図2-2に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表3に示す。設問1～設問7について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図2-3に示す。

2018年度臨床検査学科4年の臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、設問1～設問7のいずれも評定値の平均値は「4:最低水準は修得できた」以上の回答が得られた。また中央値も、設問4(地域貢献)では「4:最低水準は修得できた」であったが、それ以外の設問では「5:概ね修得できた」となっており、学科ディプロマ・ポリシーはすべて最低限達成できている状況であった。

設問1(知識技能)、設問2(倫理責任)、設問3(チーム医療)、設問5(生涯学習)、設問7(判断解決)についての回答は、ほぼ同等の分布を示しており、「5:概ね修得できた」と回答した学生が最も多く、「5:概ね修得できた」以上と回答した学生の割合は半数を超えていた。設問1(知識技能)は、「4:最低水準は修得できた」より低く自己評価した学

生はほとんどいなかったものの、設問2（倫理責任）、設問3（チーム医療）、設問5（生涯学習）、設問7（判断解決）では「4：最低水準は修得できた」より低く自己評価した学生もいた。設問4（地域貢献）と設問6（国際探求）は「4：最低水準は修得できた」～「6：完全に修得できた」と回答した学生の割合が他の設問と比べ低い傾向にあり、他の設問より平均点が低い傾向にあった。地域社会と連携した医療福祉の実践と貢献に関する自己評価が低い傾向にあったことは、地域医療と臨床検査技師の関係について理解が不足している学生がいることを反映している。今後、さらに「5：概ね修得できた」以上と回答できる学生を増加させるために、各授業における理解を助ける対応やカリキュラム編成を検討していく必要がある。また、探究心と向上心を持ち、グローバルに活躍する意思と積極性の自己評価が低い傾向にあることから、学生の能動的に考える力を伸ばす教育内容や取り組みについて検討を行い、実践していく必要がある。実習や卒論等における課題に対する個々の学生の姿勢や学修状況を把握し、達成度の低い学生への対応を強化することも重要である。さらに、大学教育のグローバル化が進展していく中で、今後ますます高度化・多様化する医療・社会のニーズに対応し、幅広い分野で活躍できる臨床検査技師の育成を目指し、教育の質の向上を図る必要がある。

表2-2. アンケート調査の設問項目（臨床検査学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (知識技能)	幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能が身につきましたか。
設問2 (倫理責任)	生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができるようになりましたか。
設問3 (チーム医療)	医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができるようになりましたか。
設問4 (地域貢献)	地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができるようになりましたか。
設問5 (生涯学習)	常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができるようになりましたか。
設問6 (国際探求)	研究的探究心を失うことなく、常に向上心を持ち、グローバルに活躍する意志と積極性が身につきましたか。
設問7 (判断解決)	科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力が身につきましたか。

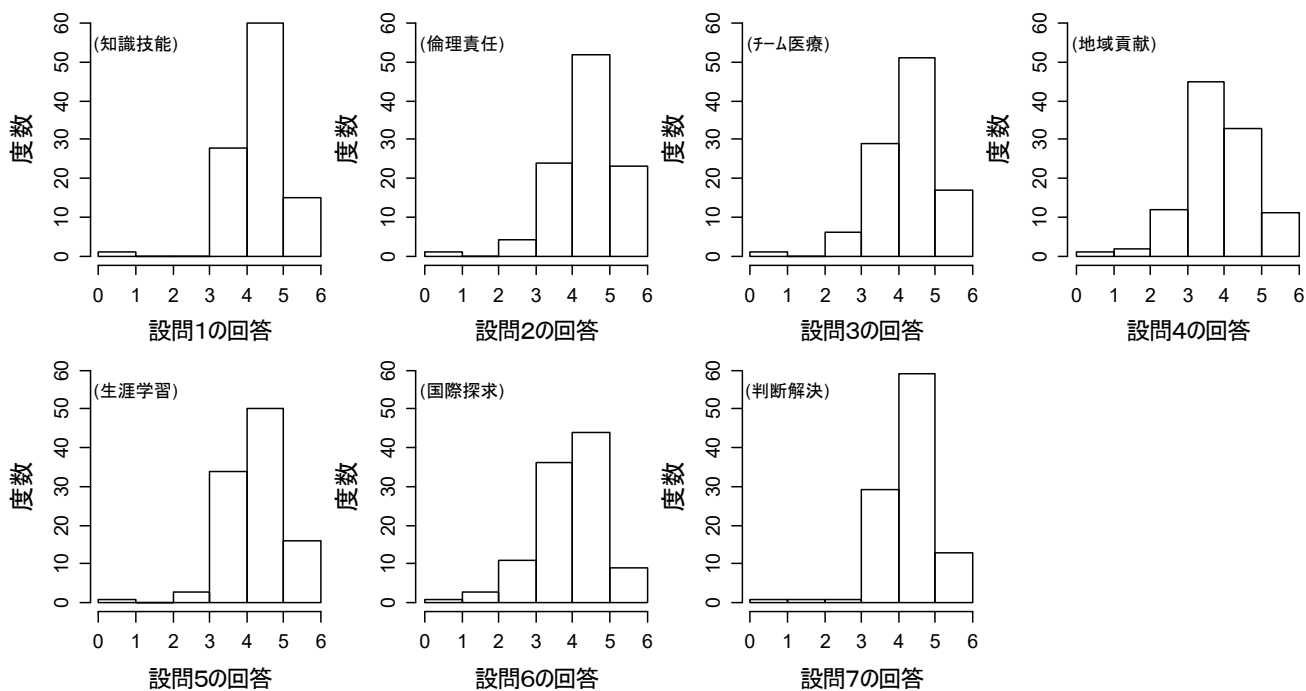


図 2-1. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

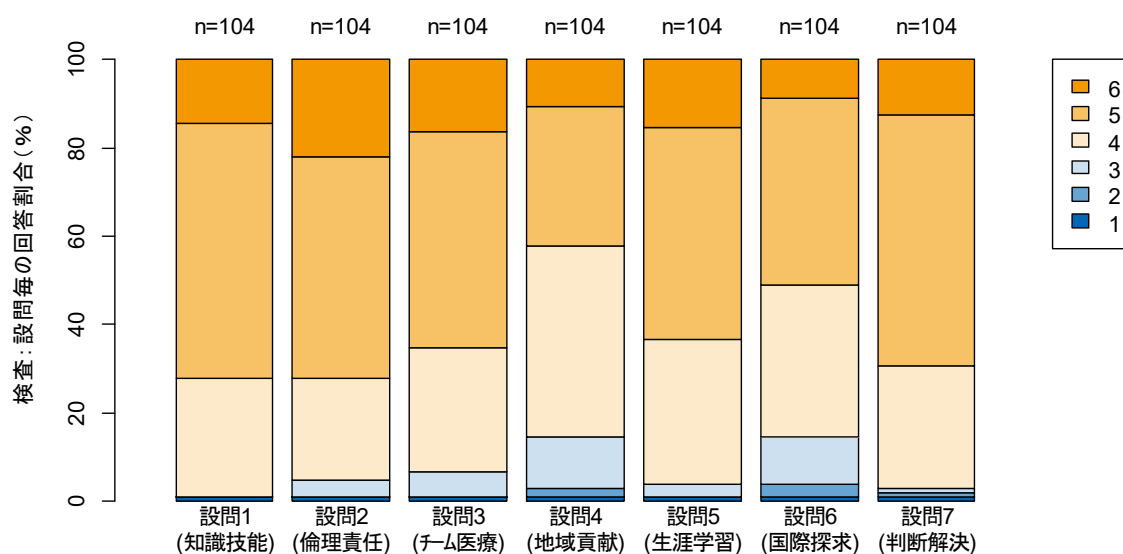


図 2-2. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

表 2-3. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

検査	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	4.837	4.875	4.731	4.346	4.731	4.404	4.7596
標本SD	0.732	0.858	0.864	0.944	0.819	0.951	0.7867
中央値	5	5	5	4	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	1	1	1	1	1	1	1
n	104	104	104	104	104	104	104

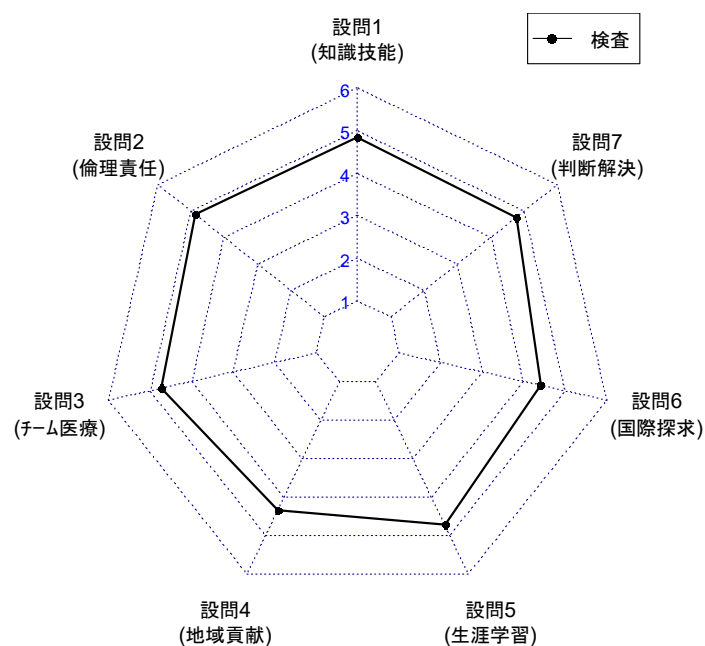


図2-3. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

2-2-2) 看護学科

アンケート調査項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）を表2-4に示す。

2018年度看護学科4年生を対象とした看護学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、設問1～設問8に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生103名中103件：回収率100%）のヒストグラムを図2-4に示す。各設問に対する回答の割合を図2-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-5に示す。設問1～設問8について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図2-6に示す。

2018年度看護学科4年の看護学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、設問1～設問8のいずれも評定値の平均値は「4：最低水準は修得できた」以上の回答が得られ、中央値は「5：概ね修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは概ね達成できている状況であった。評定値の平均値が「5：概ね修得できた」以下であったのは、「設問6（協調指導）・設問7（地域貢献）・設問8（国際探求）」であった。これら3項目については、「4：最低水準は修得できた」と回答する学生を「5：概ね修得できた」と回答できるようにカリキュラムを検討していく必要がある。平均値が高かったのは設問5（コミユカ）、次いで設問3（自立責任）であった。看護師・保健師として実践していくためには必要な能力であり、今後も継続できるように支援していく必要がある。2018年度4年生は全員が看護師国家試験と保健師選択選抜学生15名は保健師国家試験に合格しており、国家試験受験直前の状況として国家試験合格レベルには達しているという自己評価につながったと推察できる。

表 2-4. アンケート調査の設問項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）

設問 1 (知識技能)	看護職の基盤となる知識と技能が身につきましたか。
設問 2 (看護基礎)	看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できるようになりましたか。
設問 3 (自律責任)	人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができるようになりましたか。
設問 4 (生涯学習)	専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学修を生涯継続していく姿勢を身につけることができましたか。
設問 5 (コミュカ)	多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができるようになりましたか。
設問 6 (協調指導)	保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォローシップを発揮することができるようになりましたか。
設問 7 (地域貢献)	地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができるようになりましたか。
設問 8 (国際探求)	国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができるようになりましたか。

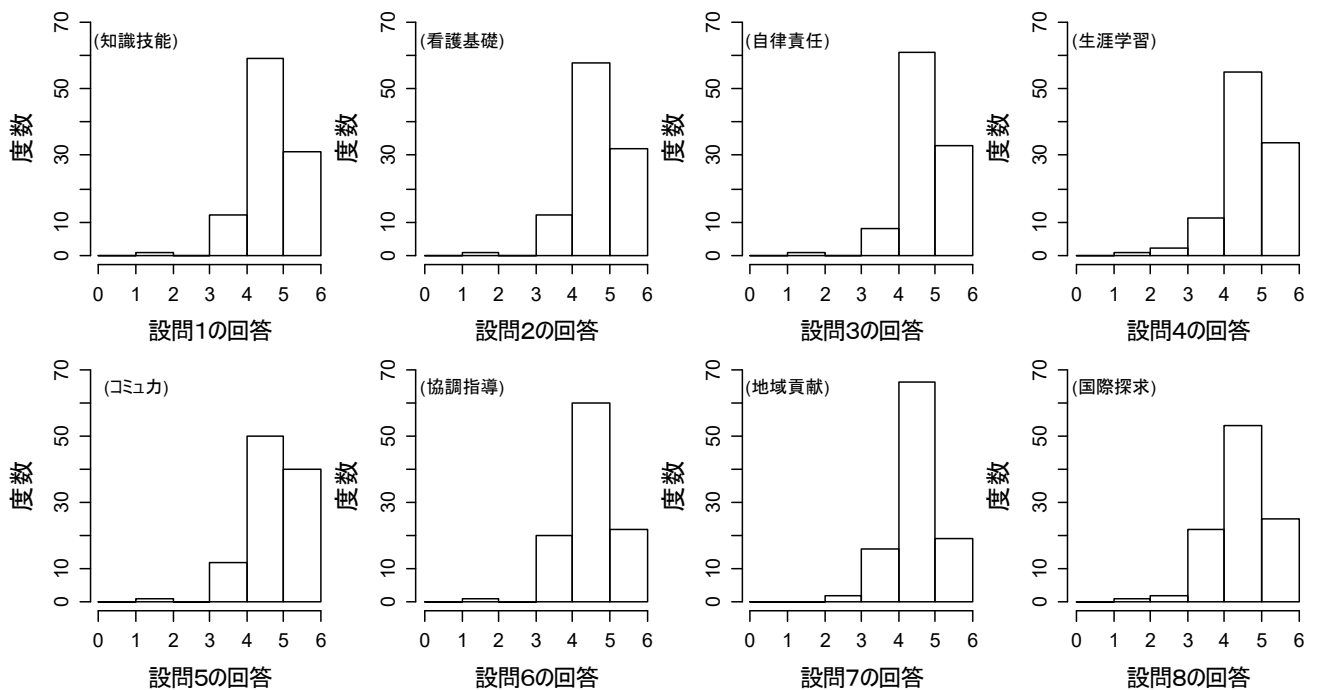


図 2-4. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

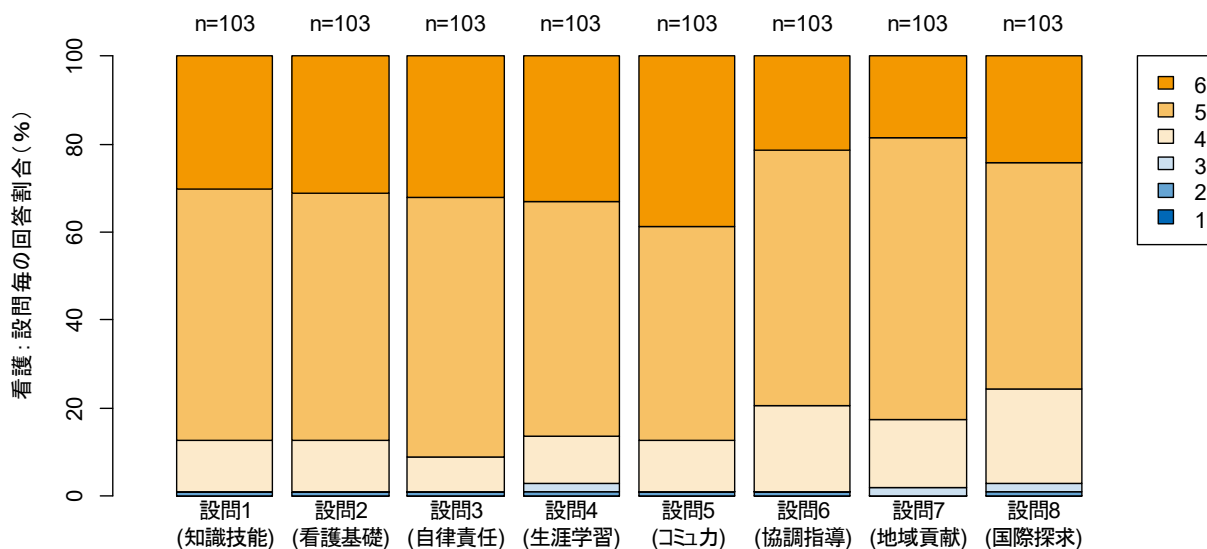


図 2-5. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

表 2-5. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

看護	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
平均値	5.155	5.165	5.214	5.155	5.243	4.990	4.990	4.961
標本SD	0.690	0.695	0.660	0.756	0.727	0.700	0.643	0.783
中央値	5	5	5	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	6	6	6
最小値	2	2	2	2	2	2	3	2
n	103	103	103	103	103	103	103	103

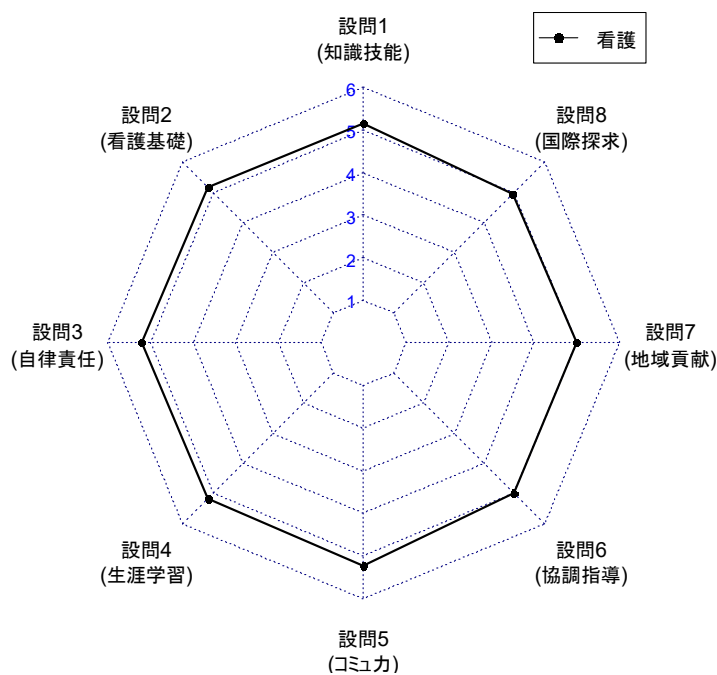


図 2-6. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

2-3) 放射線学科

アンケート調査項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）を表2-6に示す。

2018年度放射線学科4年生を対象とした放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、設問1～設問5に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生51名中51件：回収率100%）のヒストグラムを図2-7に示す。各設問に対する回答の割合を図2-8に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-7に示す。設問1～設問5について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図2-9に示す。

表2-7の結果にて、すべての設問の中央値が「5：概ね修得できた」を示していることから、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況と判断できる。また、すべての設問で半数以上の学生が「5：概ね修得できた」または「6：完全に修得できた」と回答し、特に設問1（倫理態度）についてはその割合が他の設問よりも高く、達成感を感じているようである。設問2（チーム医療）、設問3（知能技能）の回答は、ほぼ同等の分布を示しており、今後、「4：最低水準は修得できた」と回答する学生を「5：概ね修得できた」と回答できるようにカリキュラムを検討していく必要がある。

設問4（判断解決）、設問5（国際探求）については「5：概ね修得できた」「6：完全に修得できた」の割合が他よりも低い。設問4については専門知識を利用した論理的思考が身についたと認識する学生が若干少ないことを表しており、今後は自ら考え問題解決する機会を増やす必要がある。本件については、2018年度の3年生からPBLをカリキュラムに組み込んだため改善される可能性があり、継続調査したい。また、設問5の国際探求が低いことについては、卒業研究に取り組む姿勢に個人差があることや、本学科が留学生の交換をまだ本格的に行っていないことも原因として考えられ、今後は卒業研究の指導強化やグローバル化を推進する必要がある。

表2-6. アンケート調査の設問項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (倫理態度)	医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけることができましたか。
設問2 (チーム医療)	チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力が身につきましたか。
設問3 (知識技能)	診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術が身につきましたか。
設問4 (判断解決)	診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができるようになりましたか。
設問5 (国際探求)	医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野が身につきましたか。

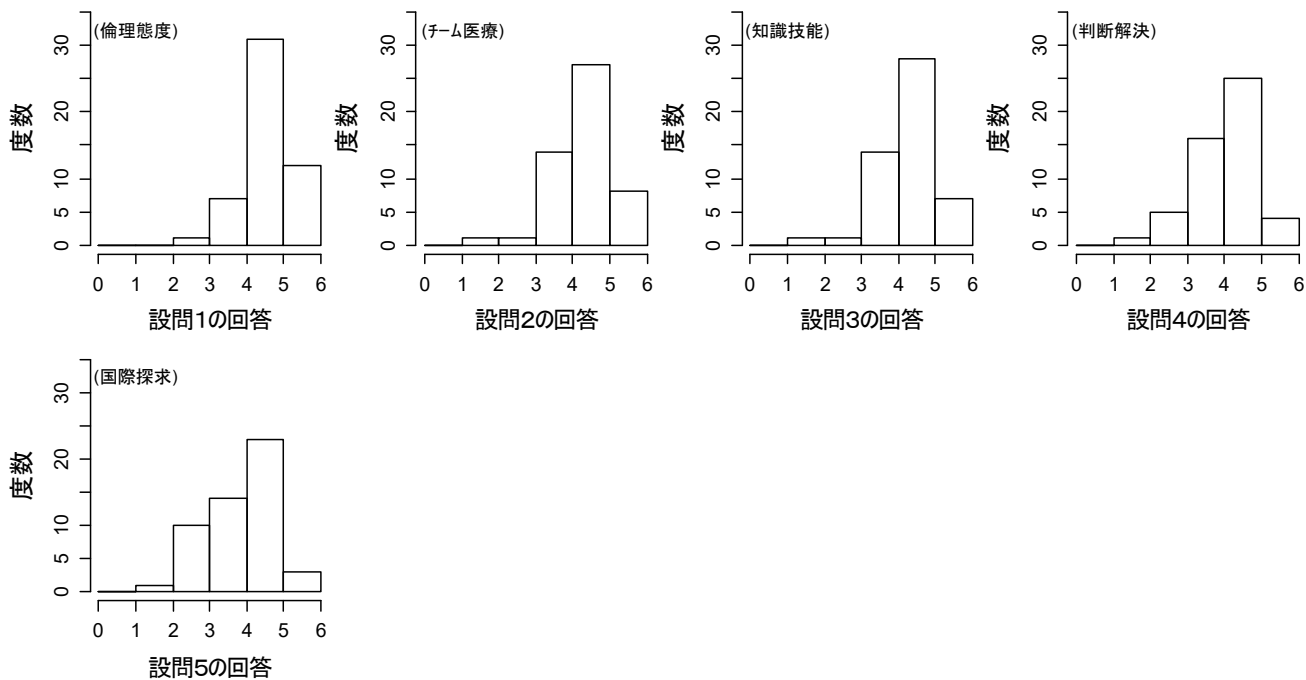


図 2-7. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

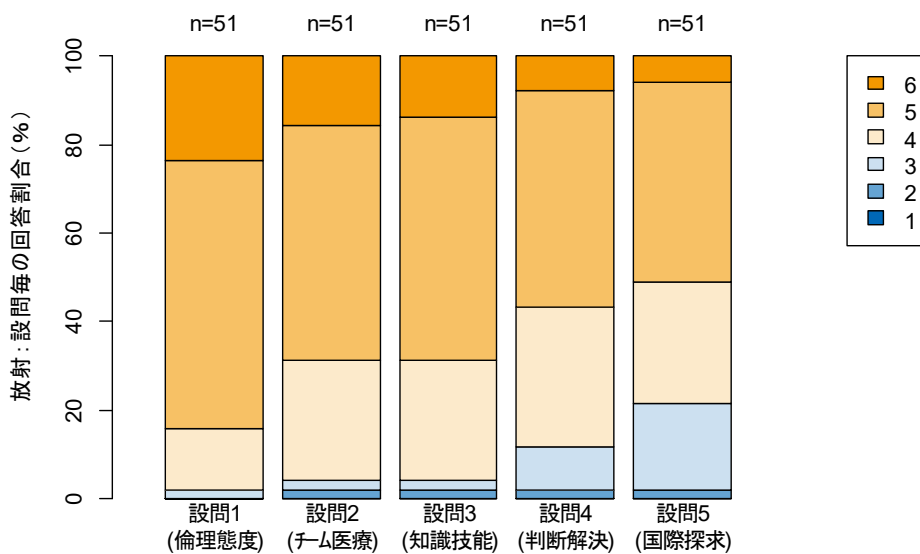


図 2-8. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

表 2-7. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

放射	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
平均値	5.059	4.784	4.765	4.510	4.333
標本SD	0.662	0.792	0.774	0.840	0.913
中央値	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6
最小値	3	2	2	2	2
n	51	51	51	51	51

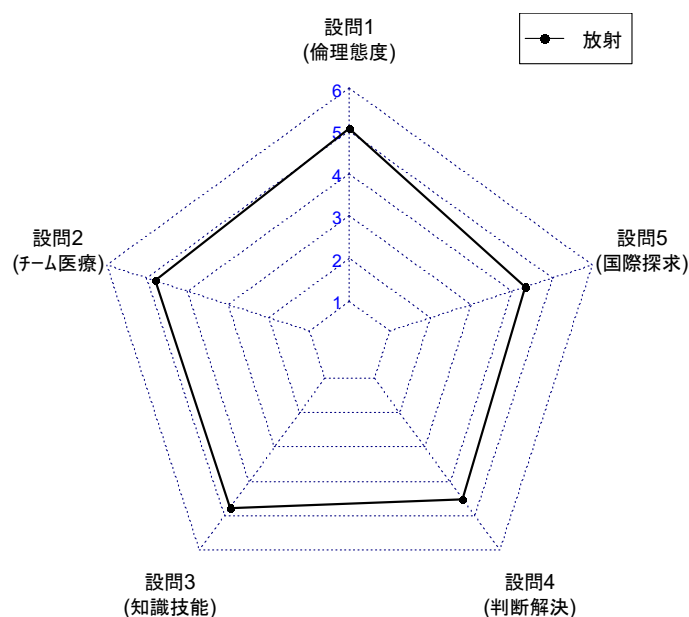


図2-9. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

2-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表2-8に示す。

2018年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、設問1～設問7に対する評定尺度毎の回答結果(卒業生60名中60件:回収率100%)のヒストグラムを図2-10に示す。各設問に対する回答の割合を図2-11に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-9に示す。設問1～設問7について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図2-12に示す。

2018年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年生のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、設問1～設問7のいずれも評定値の平均値は「4:最低水準は修得できた」前後の回答が得られ、中央値も「4:最低水準は修得できた」～「5:概ね修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況であった。今後、「4:最低水準は修得できた」と回答する学生を「5:概ね修得できた」と回答できるようにカリキュラムを検討していく必要がある。

設問1(専門知識)、設問2(倫理態度)、設問3(科学行動)、設問5(地域貢献)、設問6(専門技能)についての回答は、ほぼ同等の分布を示していた。特に、平均値が上位3位を占めている設問1(専門知識)、設問2(倫理態度)、設問6(専門技能)は、本学の特徴である客観的臨床能力試験(OSCE)、豊富な臨床実習などを通して得られたものと考えられる。設問4(生涯学習)、設問7(チーム医療)についての回答は、他の設問と比較して「3:ある程度修得したが、最低水準には届かない」、「2:十分に修得できていない」、「1:全く修得できていない」の回答が多い傾向であった。設問4(生涯学習)は向上心や探究心

を問う項目であり、今後、**能動的学習を促す教育方法の検討と実践**が必要であると考えられる。また、設問7（チーム医療）の回答に、少数ながらも自己評価の低い学生が存在していたことから、臨床実習のようなチーム医療の実践現場を通じて、学生の理解や学修状況を把握しながら、**チーム医療の重要性を指導するとともに、実践を経験させるような実習指導が必要である。**

表2-8. アンケート調査の設問項目（リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (専門知識)	医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力が身につきましたか。
設問2 (倫理態度)	患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度が身につきましたか。
設問3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができるようになりましたか。
設問4 (生涯学習)	最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができるようになりましたか。
設問5 (地域貢献)	患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができるようになりましたか。
設問6 (専門技能)	専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができるようになりましたか。
設問7 (チーム医療)	組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになりましたか。

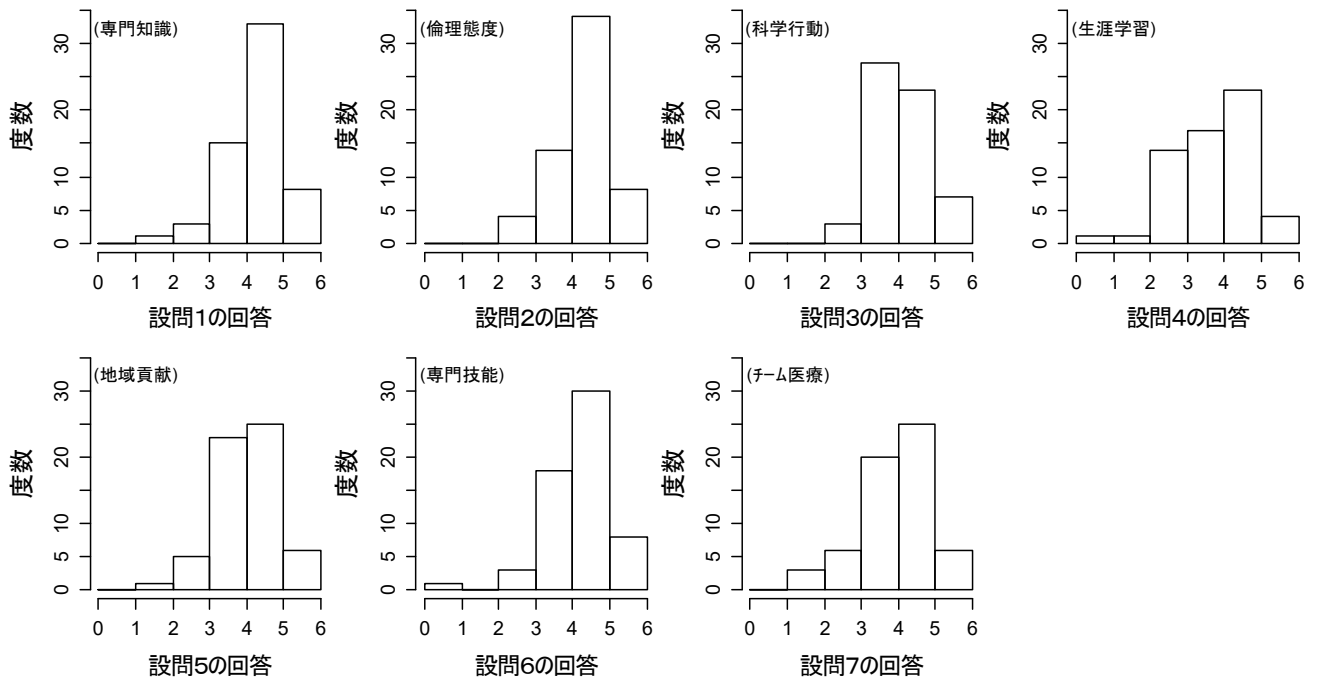


図2-10. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

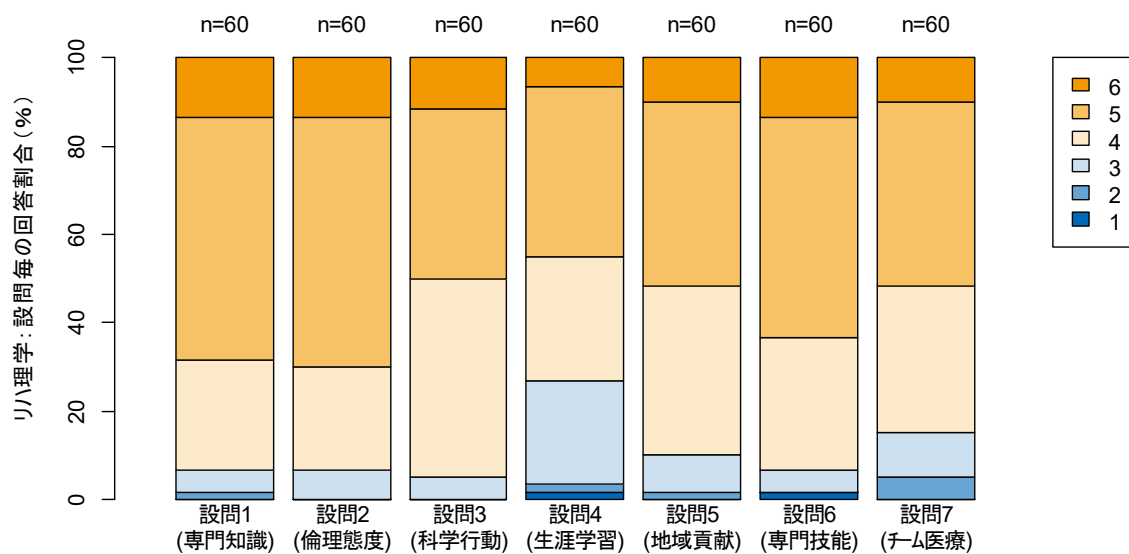


図2-11. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

表2-9. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

リ理	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	4.733	4.767	4.567	4.200	4.500	4.667	4.417
標本SD	0.807	0.754	0.754	1.021	0.839	0.881	0.963
中央値	5	5	4.5	4	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	2	3	3	1	2	1	2
n	60	60	60	60	60	60	60

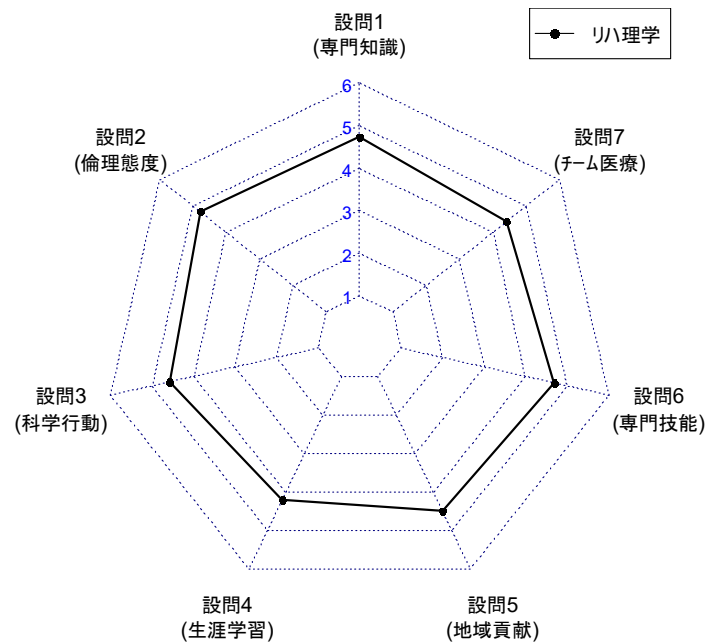


図2-12. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

2-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表2-8に示す。

2018年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、設問1～設問7に対する評定尺度毎の回答結果(卒業生52名中52件:回収率100%)のヒストグラムを図2-13に示す。各設問に対する回答の割合を図2-14に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-10に示す。設問1～設問7について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図2-15に示す。

2018年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、設問1～設問7のいずれも評定値の平均値は「4:最低水準は修得できた」前後の回答が得られ、中央値も「4:最低水準は修得できた」～「5:概ね修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況であった。今後、「4:最低水準は修得できた」と回答する学生を「5:概ね修得できた」と回答できるようにカリキュラムを検討していく必要がある。

設問1(専門知識)、設問2(倫理態度)、設問3(科学行動)についての回答は、ほぼ同等の分布を示していたが、この3つの項目に比べ、設問4(生涯学習)、設問5(地域貢献)、設問6(専門技能)、設問7(チーム医療)において「3:ある程度修得したが、最低水準には届かない」、「2:十分に修得できていない」、「1:全く修得できていない」の回答が多い傾向であった。平均値が上位3位を占めている設問1(専門知識)、設問2(倫理態度)、設問6(専門技能)は、本学の特徴である客観的臨床能力試験(OSCE)、豊富な臨床実習などを通して得られたものと考えられる。しかし、設問6(専門技能)で「3:ある程度修得

したが、最低水準には届かない」、「2：十分に修得できていない」と回答した学生が存在していたことから、今後、OSCE や臨床実習の成績を参考にして、**技能修得が不十分な学生に対し、指導を強化**する必要がある。また、設問4（生涯学習）は平均点が3.9と最も低い結果であった。今後、生涯教育に求められる向上心や探究心を育成するために**能動的学習を促す教育方法の検討と実践**が必要であると考えられる。

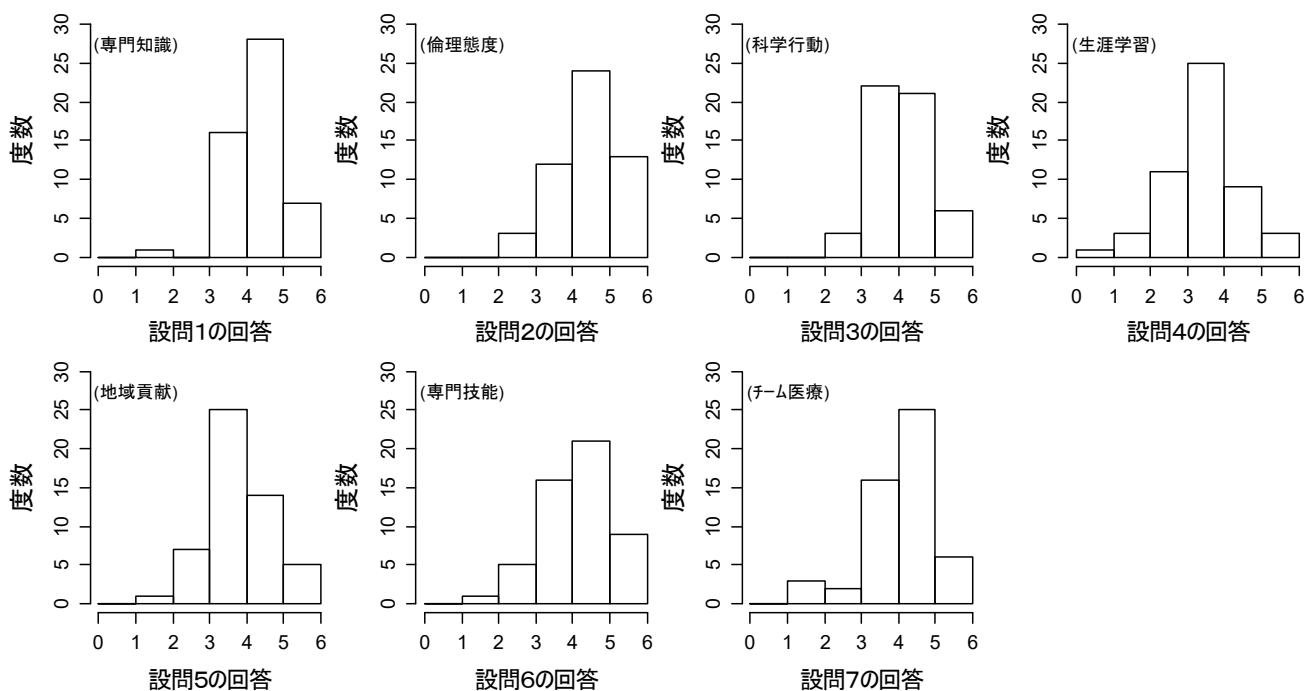


図2-13. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

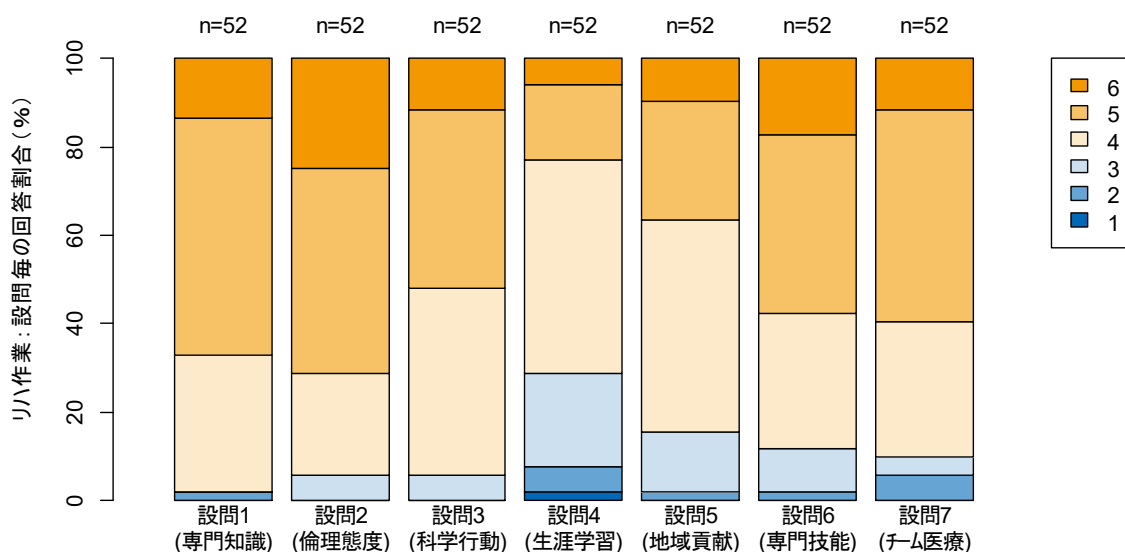


図2-14. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

表 2-10. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
基本統計量

リ作	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	4.769	4.904	4.577	3.904	4.288	4.615	4.558
標本SD	0.743	0.830	0.761	0.995	0.876	0.935	0.940
中央値	5	5	5	4	4	5	5
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	2	3	3	1	2	2	2
n	52	52	52	52	52	52	52

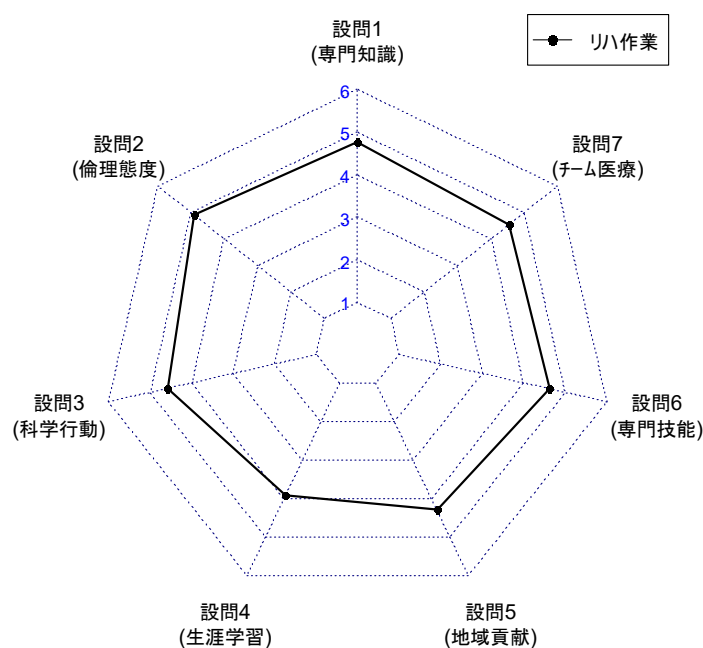


図 2-15. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
評定値の平均値

2-6) 臨床工学科

アンケート調査項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）を表 2-11 に示す。

2018 年度臨床工学科 4 年生を対象とした臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、設問 1～設問 5 に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生 58 名中 58 件：回収率 100%）のヒストグラムを図 2-16 に示す。各設問に対する回答の割合を図 2-17 に示す。

アンケート回答結果について、簡便に 6 段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表 2-12 に示す。設問 1～設問 5 について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図 2-18 に示す。

2018 年度臨床工学科 4 年生の臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、設問 1～設問 5 のいずれも評定値の平均値が「4：最低水準は修得できた」～「5：概ね修得できた」であった。中央値は「5：概ね修得できた」を示し、学科ディプロマ・ポリシーは

ほぼ達成できている状況であった。設問3（生涯学習）の回答は、他に比べ「6：完全に修得できた」の度数が最も高く、他方、設問2（医工統合）では、「6：完全に修得できた」の度数が最も低かった。なお、どの設問に対しても「4：最低水準は修得できた」の回答数が25～30%を占めるため、今後「4：最低水準は修得できた」と回答する学生を「5：概ね修得できた」と、「5：概ね修得できた」と回答する学生を「6：完全に修得できた」と回答できるようにカリキュラム・教育内容（科目連携）を検討していく必要がある。具体的には、医療国家資格および医療職に関連するポリシーが十分に実感できるような工夫を検討・実行し、生涯学習につながるよう模索したいと考える。

表2-11. アンケート調査の設問項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (知識技能)	臨床工学技術領域に従事するための基本的な知識・技能が身につきましたか。
設問2 (医工統合)	安全な医療を行うために医学知識と工学知識が統合できていますか。
設問3 (生涯学習)	常に向上心を持ち生涯学び続ける事の大切さが理解できていますか。
設問4 (チーム医療)	高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を身につけ、他の医療職と協働してチーム医療に貢献しようとする意思をもっていますか。
設問5 (地域貢献)	臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備えようとするとともに医学の進歩と地域・社会福祉の向上に貢献しようとする姿勢ができていますか。

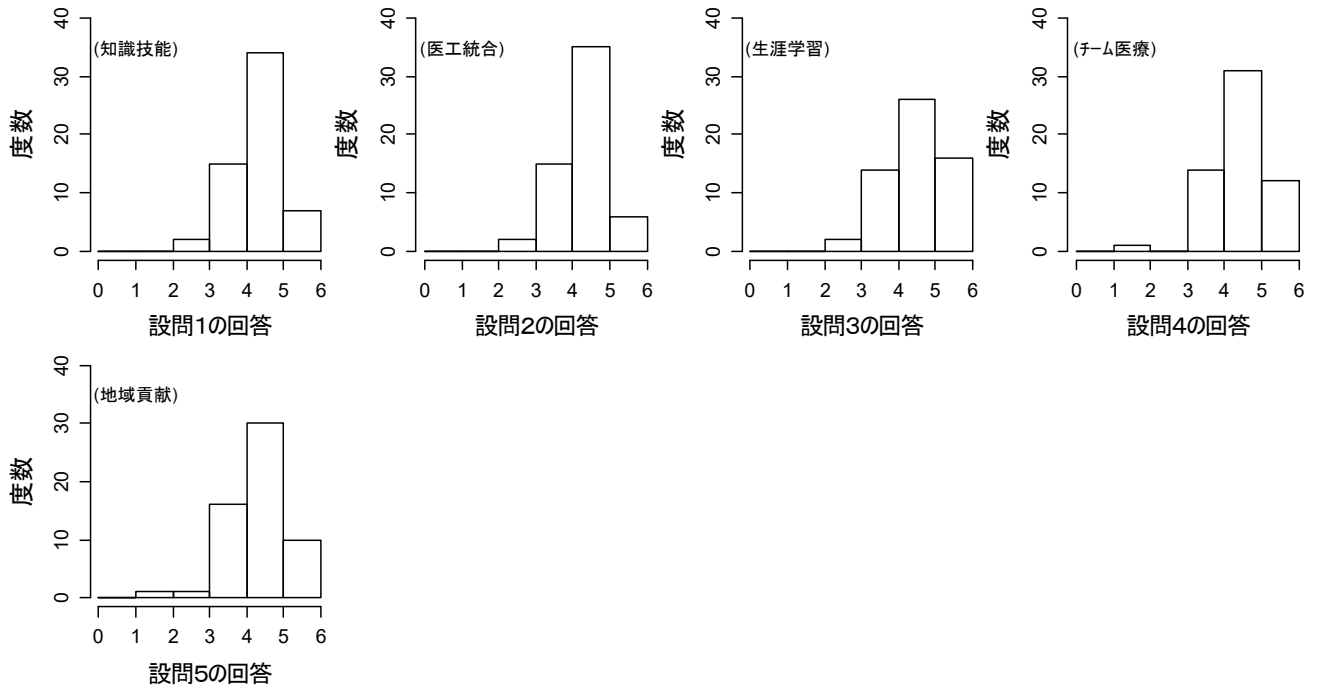


図 2-16. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

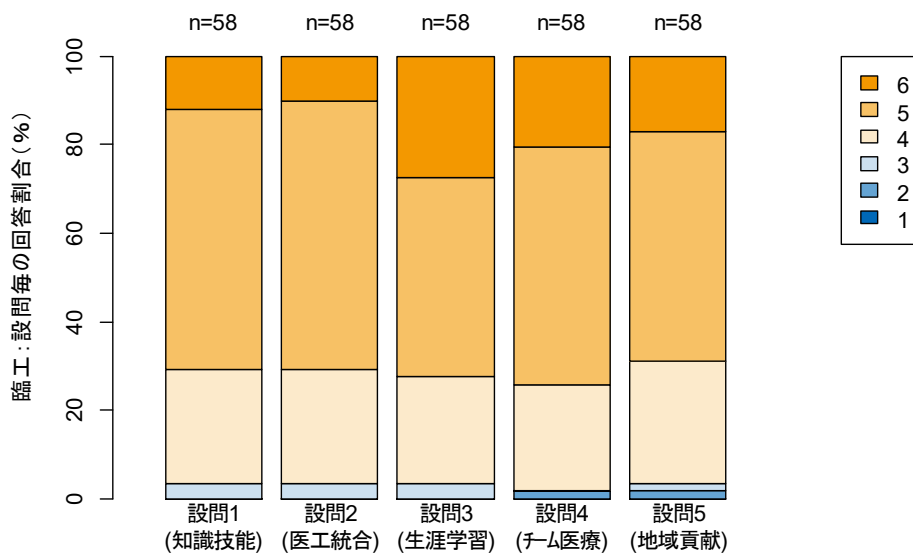


図 2-17. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

表 2-12. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

臨工	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
平均値	4.793	4.776	4.966	4.914	4.810
標本SD	0.683	0.665	0.802	0.765	0.791
中央値	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6
最小値	3	3	3	2	2
n	58	58	58	58	58

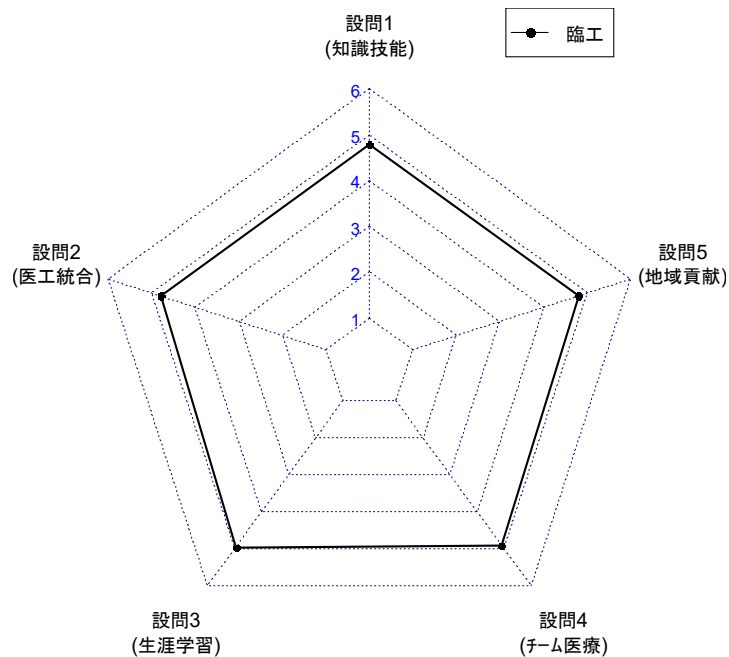


図 2-18. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

2-7) 医療経営情報学科

アンケート調査項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）を表 2-13 に示す。

2018 年度医療経営情報学科 4 年生を対象とした医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、設問 1～設問 7 に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生 38 名中 38 件：回収率 100%）のヒストグラムを図 2-19 に示す。各設問に対する回答の割合を図 2-20 に示す。

アンケート回答結果について、簡便に 6 段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表 2-14 に示す。設問 1～設問 7 について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図 2-21 に示す。

2018 年度医療経営情報学科 4 年生の医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、設問 1～設問 7 のいずれも評定値の平均値は「4：最低水準は修得できた」以上の回答が得られ、中央値も「4：最低水準は修得できた」、「5：概ね修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況であった。

設問 1（分析力）・設問 2（チーム医療）・設問 3（生涯学習）・設問 7（経営管理）の回答は、ほぼ同等の分布を示しており、「6：完全に修得できた」の回答は少ないものの「2：十分に修得できていない」以下の回答は無かった。今後、「4：最低水準は修得できた」と回答する学生を「5：概ね修得できた」と回答できるようにカリキュラムを検討していく必要がある。設問 4（診療報酬）・設問 5（診療管理）については「5：概ね修得できた」、「6：完全に修得できた」の回答の比率が高くなった。診療報酬請求事務能力および診療情報管理士の資格試験の合格率の高さが反映されていると考えられる。設問 4（診療報酬）では「2：十分に修得できていない」の回答も見られることから、今後も診療報酬請求事務能力の資格取得率を向上させる対策を継続し、「6：完全に修得できた」の回答を増やしていく必要がある。

ある。設問6（医療情報）については、中央値は4であるものの「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下の回答の比率が他の設問より高く、医療情報技師能力検定試験に不合格であるような情報系に苦手意識のある学生が一定数存在していることが示唆された。今後、「3」から「4」へと自己評価できる学生を増やすべく、資格取得対策等をさらに充実させたい。

表2-13. アンケート調査の設問項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (分析管理)	医療の質向上に貢献することができる情報分析能力やマネジメント能力が身につきましたか。
設問2 (チーム医療)	医療人としてふさわしい高い倫理観を身につけ、チーム医療の一員として問題解決にあたるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身につきましたか。
設問3 (生涯学習)	社会の変化や医療の進歩に対応して自らの専門性を発揮できるよう生涯学習を続ける意欲が身につきましたか。
設問4 (診療報酬)	診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力が身につきましたか。
設問5 (診療管理)	診療情報管理士認定試験に合格できる知識と技能の水準に達しましたか。
設問6 (医療情報)	医療情報技師能力検定試験に合格できる知識と技能の水準に達しましたか。
設問7 (経営管理)	経営・管理に関する知識を医療に応用する基礎的能力が身につきましたか。

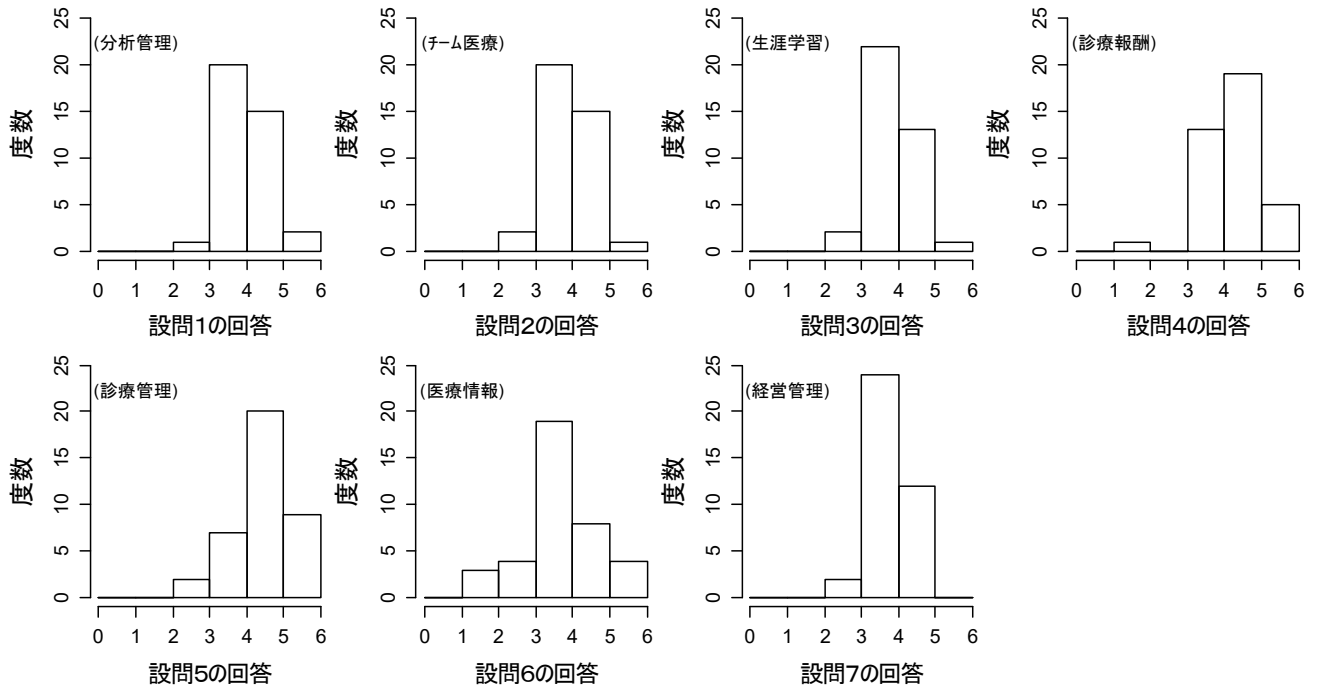


図 2-19. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

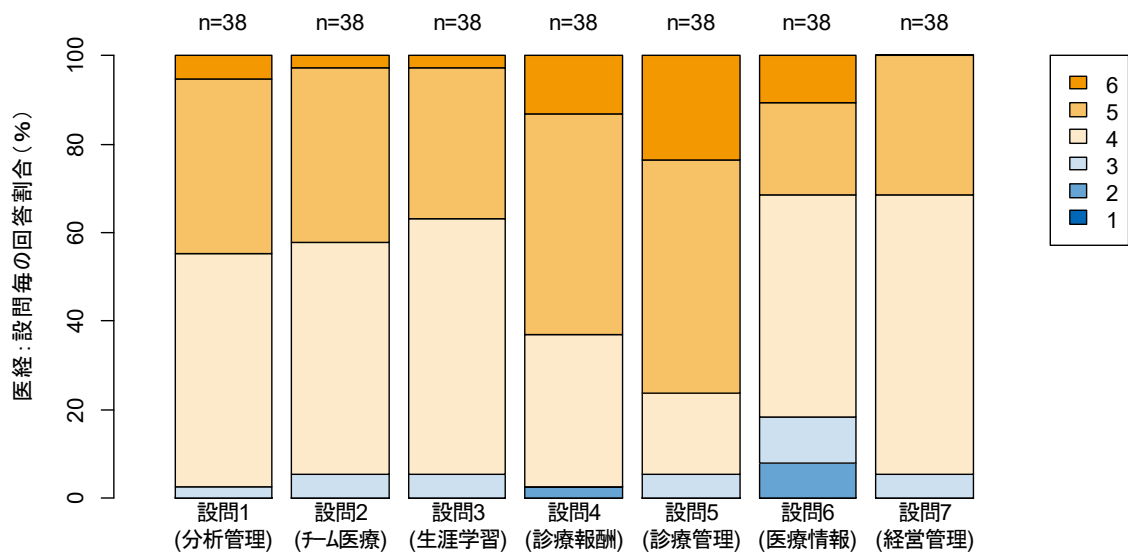


図 2-20. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

表 2-14. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

医経	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	4.474	4.395	4.342	4.711	4.947	4.158	4.263
標本SD	0.630	0.622	0.611	0.781	0.782	1.000	0.540
中央値	4	4	4	5	5	4	4
最大値	6	6	6	6	6	6	5
最小値	3	3	3	2	3	2	3
n	38	38	38	38	38	38	38

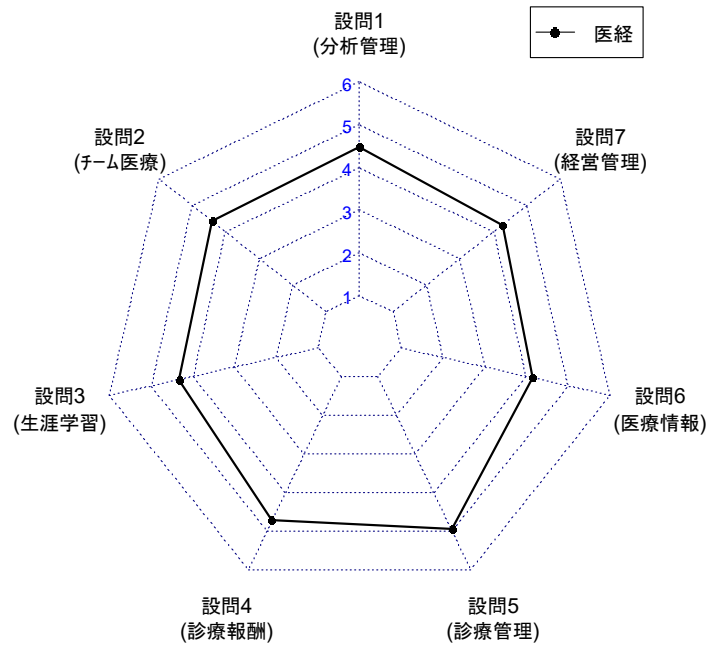


図 2 - 21. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値